

診療科のご案内

基本理念

当センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担います。



法人の理念(ミッション)

当センターでは、以下のビジョンの下、その実現へ向けた取り組みを行って おります。

[法人のビジョン]

高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供

- ・ 医療モデルの確立と普及
- ・医療の標準化、治療法の開発

[ビジョン実現への戦略]

- ・重点医療の提供
- ・ 急性期医療の提供
- ・地域連携の推進
- ・救急医療の充実

高齢者医療・介護を支える研究の推進

- ・ 研究成果を活かした高齢者の心身の特性 に応じた医療の提供
- ・高齢者の健康増進と健康長寿の実現

高齢者医療・介護を支える専門人材の育成

- ・ 法人職員の人材育成
- ・ 地域の医療・介護を支える人材の育成

・ 老化のメカニズムと制御に関する研究

- ・重点医療に寄与する研究
- ・高齢者の健康長寿と福祉に関する研究
- ・産・学・公の連携

・ 高齢者の疾病特性に精通した医師、看護師、 医療技術者の育成

・ 老年学・老年医学をリードする研究者の育成

法人事業を維持・発展させる経営基盤の確立

- ・効率的な運営管理体制の確立
- ・自立的経営の実現

・ 診療・研究体制の弾力的な運用

- ・ 安定した収入の確保、適切なコスト管理
- ・ 都民のニーズの変化に対応した事業の実施



高齢者の健康増進・健康長寿の実現を目指して

1)	ご挨拶 ・・・・・・・ 1	
2)	施設概要3	
3)	医療実績(令和2年度) ・・・・・・・・ 4	
4)	当センターの歴史 ・・・・・・・ 5	
5)	当センターの特色 ・・・・・・・・・ 6	
6)	紹介・予約方法 ・・・・・・・・ 7	
7)	はじめて受診される方 ・・・・・・・・ 9	
8)	救急外来のご案内 ・・・・・・・・10	
9)	検査のご案内 ・・・・・・・・・11	3
10)	検査予約システムのご案内 ・・・・・・・13	
11)	診療科のご案内 ・・・・・・・・・14	7
12)	医療連携室のご案内 ・・・・・・・・77	7
13)	在宅医療・福祉相談室のご案内 ・・・・・78	N
14)	連携医制度のご案内 ・・・・・・・・79	M
15)	施設のご案内 ・・・・・・・・・・81	
16)	各種電話番号84	



ご挨拶



理事長 鳥羽 研二

令和元年6月1日付で理事長に就任いたしました鳥羽研二です。

東京都健康長寿医療センターは、1872年に設立された養育院を前身としています。令和の紙幣を飾る渋沢栄一翁は養育院の初代院長でもあり、福祉・医療事業の維持・発展のため五十有余年にわたり力を尽くしました。その精神は、先人たちにより脈々と受け継がれ、2009年に東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所両施設が一体化するかたちで地方独立行政法人となり、今日に至ってもなお、高齢者医療のパイオニア・老年学研究の拠点として、活発な診療・研究活動を展開しております。

超高齢社会がピークを迎える2040年において、健康寿命を最も阻害する上位には、血管疾患、がん、認知症、糖尿病、フレイル(転倒)、慢性疼痛(腰痛)、感覚器(難聴、視力障害)が挙げられており、臨床老年医学、基礎老年学及び予防を含めた老年社会学の重要性は、わが国の主要な研究の柱に位置付けられていくでしょう。そして、これらは当センターが主要な研究テーマとしてこれまで取り組んできているものでもあります。

病院部門においては、「患者さんにとって最適な医療とは何か」を医療者の共通の思いとし、 患者さん及びご家族の満足度をさらに向上していきたいと思います。

2025年には都の後期高齢者人口は約200万人となることが見込まれるなど、大都市が地域ごと 老いていく21世紀において、当センターは、地域の医療福祉機関との連携のみならず、行政や研 究機関等とも融通無碍な共同作業を地道に続けて、この大きな波に立ち向かってまいります。

足りないところなど忌憚のないご意見をお寄せください。皆様のご意見が我々の新しい課題となります。我々はその課題を乗り越えるために、今までよりも一層ファイトが湧く組織であり続けたいと思います。

センター長 許俊鋭



当センターでは、「患者さん、ご家族に喜んでいただける医療」を目指して心血管病(生活習慣病)、がん医療、認知症、救急医療に全力で取り組んでいます。この4つの柱を重点医療とし、更に高齢者に多発する骨関節疾患、肺疾患、目、鼻、皮膚などの感覚器疾患などの疾患に対しても十分な医療ができる体制を構築しています。190万人の人口を有する東京の区西北部二次医療圏の地域医療のモデルを作ると同時に、私たちの病院には高齢者に最先端の医療をどこまで実施できるのか、実施するために超えるべき壁は何か、実施した結果何が得られるのか、といった高齢者に特化した問題解決のための高度専門医療を担う病院としての役割も負っています。高齢者に優しい低侵襲先端医療を可能な限り取り入れて、高齢者の「健康で幸せな」未来を拓いていくことにも注力していきます。

併設の研究所では、老化そのものの機序や高齢者に多い認知症、フレイル(虚弱)、サルコペニアなどの疾患の機序の解明、更に早期診断・治療および予防に関する研究とともに、「私たちが良かれと思って実施してきたことが本当に良かったことなのか」「患者さんおよびご家族が在宅で高齢者を診ていくことに満足されているのか、ご家族とともに幸せを享受されているのか」などのさまざまなデータを集めて、次世代の高齢者医療につながる研究も展開しています。こうした研究の中から高齢社会において、地域全体で高齢者を診ていくシステムをどうのように作っていくのが良いかを考えていく、日本の高齢者社会を担う専門病院・研究所でもあります。

今後さらに高齢化が進みます。センターは単なる高機能な病院、研究所に終わることなく、研究所と病院が協力し、地域に住む高齢者の健康増進をどう図るかを考え、高齢者に多い『日常生活動作』(ADL)の低下、認知症など高齢者の『生活の質』(QOL)を低くする老年症候群の予防、治療、ケアまでを一貫して行うセンターを目指します。また、こうした活動を通じて全ての職員が日々の診療活動や研究活動に喜びと生きがいを感じる職場となるようセンターを構築していきたいと考えています。

明治5年に設立され、これまで145年に亘りわが国の高齢者の福祉、医療に重要な役割を果たした養育院の歴史を踏まえつつ、東京都健康長寿医療センターはこれからの高齢社会の問題を発掘し、先行的にその解決を図る高齢者のリーディングホスピタル・研究所であり続けたいと決意しています。

医療実績(令和2年度)

名称

東京都健康長寿医療センター

所在地

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

電話番号

03-3964-1141 (代表) / FAX 03-3964-1982 (代表) 03-3964-1392 (連携室直通)

開設者

理事長 鳥羽 研二

開設年月日

平成21年4月1日

センター長

許 俊鋭

職員数

医師115人 看護師505人 医療技術183人 その他83人(令和3年4月1日現在)

診療規模

医療法定床 550床 (一般 520床 精神 30床)

外来 (予算規模)

699人/日(令和2年度)

平均在院日数

12.4日(令和2年度)

診療科目

【内 科 系】

総合内科、高齢診療科、膠原病・リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、 呼吸器内科、消化器・内視鏡内科、脳神経内科、血液内科、感染症内科、精神科、緩和ケア内科

【外 科 系】

外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、消化器外科、整形・脊椎外科、皮膚科、 泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科

【その他部門】

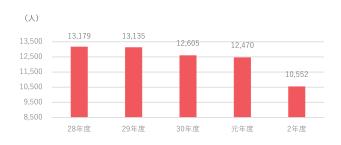
リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科

- ※ 臨床研修指定病院(医師法、歯科医師法)
- ※ 診療科以外にも臨床検査科、病理診断科を設置

救急告示

昭和40年3月18日(更新:平成29年2月1日)

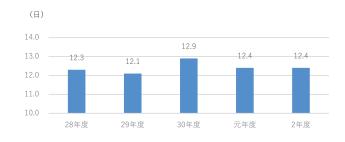
新入院患者数



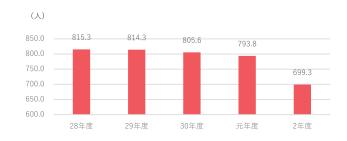
1日平均入院患者数



平均在院日数



1日平均外来患者数



延入院患者数



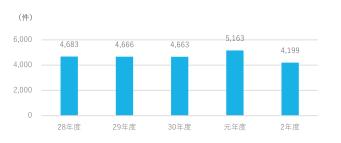
病床利用率



延外来患者数



手術件数



救急患者数



当センターの特色

渋沢栄一と当センターとの関わり

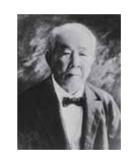
明治の初め、首都東京の困窮者、病者、孤児、老人、障害者の保護施設とし て現在の福祉事業の原点ともなる養育院が設立されました。

養育院の創立は、養育院設立時の東京府知事大久保一翁(忠寛)が幕府の目 付だったときに立案した、西洋風の・幼院・病院設置プランにさかのぼります。 そのときに資金源とされ、養育院の設置資金にも使われたのが、松平定信が定 めた江戸の貧民救済資金「七分積金」でした。明治になり、当時七分積金(営 繕会議所共有金)の管理を担当していたのが「日本資本主義の父」渋沢栄一で した。

渋沢栄一は1874 (明治7) 年より養育院の運営に関与し、1876 (明治9) 年 5月11日に養育院事務長に任命されました。養育院は、1890(明治23)年、東 京市営となり、渋沢栄一は養育院長に就任しました。以来91歳で亡くなるま で約50年間院長を続け、養育院廃止論の逆風を受けながら養育院を存続させ、 分院・専門施設を開設して事業を拡大しました。

松平定信・大久保一翁・渋沢栄一と受け継がれてきた江戸・東京の福祉事業 の歴史は戦後もつづき、現代の東京都健康長寿医療センターの設立につながっ ています。

当センターの入口近くに渋沢栄一の銅像が飾られています。 銅像は1925 (大正14)年に制作され、栄一本人も出席して除幕式が行われました。



養育院長 (明治22年~昭和6年) 渋沢栄一



板橋区登録有形文化財 渋沢栄一銅像

	高度医療	医療福祉			
初 期 -創立以前-	江戸時代に幕府が江戸に設置した無料の医療 施設「小石川養生所」が1722年に設けられ る。	寛政の改革(1787~1793)に不時の災害時 の江戸市民の救済のために七分積立を行い運 用し、維新後、明治政府・東京府に引き継が れた。			
江戸時代~明治維新	東京医学校(現:東大医学部)との連携	明治5年に創立されて以来129年に及ぶ事 業の歴史を持ち、日本の社会福祉事業の中で、 先駆的・先導的役割を担う養育院の創立			
開拓期 -福祉事業の確立- 明治〜戦前	精神病、ハンセン氏病、結核などの対策、 研究	初代院長渋沢栄一の尽力による施設運営の地 盤固め			
変革期 -高齢者福祉への転換- 戦後〜平成21年	昭和47年 老人総合研究所設立 昭和56年 財団法人東京都老人総合研究所に改組 平成14年 財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所に改組・老化・老年 病の自然科学的研究 高齢者と社会の人間科学、社会科学的研究	昭和47年 東京都養育院附属病院設立・昭和61年東京都老人医療センターに改名・最新の医療設備(CT、MR、PET)高齢者リハビリテーションの展開			
新生期 -医療と研究の融合- 平成21年〜平成25年					
新時代へ -新病院開院- 平成25年~	東京都健康長寿医療センターは、病院と研究所 療、予防を推進してまいります。	fが一体となって、 高齢者の健康増進と疾病治			

病床550床

都内トップクラスとなる550床の病床数(一般520床/精神30床)を設けています。

24時間体制救急

二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に救急診療を行っています。

【CU (特定集中治療ユニット) **CCU** (冠動脈治療ユニット) **SCU** (脳卒中ケアユニット) **の** 設 置 特定集中治療室を設置し、より効果的な治療を実施します。

28科の診療科100名以上の医師数

内科・外科に留まらず、高齢者の全身疾患に対応する充実の診療科を備えています。

7対1看護取得

手厚い看護を実現するため、7対1看護を実践しています。



光・緑・水にあふれた 癒しの環境

療養環境







- ① 障子からの柔らかな光を取り入れた病室
- ② 自然光を取り入れた心地よいスペース
- ③ くつろぎ空間を生み出すこだわりの照明





- ① 外来・入院患者さんの憩いの場である屋上庭園
- ② 春になるとセンターの周りは沢山の桜が咲きます。





身近な生き物を呼び戻すためのビオトープを設け、 患者さんや地域の方々の憩いの場となるようにしています。







著名作家によりアート作品を院内の様々な場所に設置し、 患者さんやご家族の方に楽しんでいただくようにしています。

紹介・予約方法

当センターでは、高度専門医療・急性期治療を一人でも多くの患者さんにお受けいただけるように「紹介予約制」を原則としております。当センターへ患者さんをご紹介いただく際は、事前に受診予約をお取りいただき、かかりつけの先生からの紹介状をお持ちのうえ、受診いただくようお願いいたします。

なお、当センターでの治療後、病状が安定した患者さんには、当センター医師の判断のもと、紹介元のかかりつけ医へご紹介させていただきます。(かかりつけ医をお持ちでない患者さんは「かかりつけ医紹介窓口」にてご自宅近くの連携医の先生へご紹介させていただきます。)

その後、患者さんのご病状に変化があった場合には「かかりつけ医」と当センター医師が連携して治療にあたらせていただきます。



通常の外来予約

ご予約の際は、患者さんのお名前・生年月日・お電話番号をお知らせください。 当日のご予約はお取りしておりませんのでご了承ください。

[外来予約室専用電話] 03-3964-4890 (平日 9:00~17:00)

ご病状により、お早めの受診をご希望の場合には、医療機関より医療連携 室までご相談ください。できる限りご要望に添えるよう調整させていただき ます。(患者さん個人からのご相談はお受け付けしておりません。)

[医療連携室直通電話] 03-3579-6963 (平日 9:00~17:00)



緊急受診・緊急入院のご相談

原則として、各診療科の連携当番医が直接お電話をお受けいたします。 代表番号(03-3964-1141)におかけのうえ、電話交換手へ

『緊急受診(入院)の依頼です。○○科の連携当番医につないでください』 とお話しください。

医師が直接お電話で病状等のお聞き取りをいたします。



入院(緊急を除く)・転院のご相談

まずは医療連携室までお電話のうえ、FAXにて診療情報提供書をお送りください。連携当番医へ確認のうえ、できる限り速やかにお返事いたします。

[医療連携室直通電話] 03-3579-6963 (平日 9:00~17:00)

[医療連携室直通FAX] 03-3964-1392

脳卒中ホットライン

脳卒中の発症が疑われる場合にご活用ください。

脳神経外科医(夜間・休日は神経系当直医)が直接お電話をお受けいたします。

[脳卒中ホットライン] 080-4116-1141



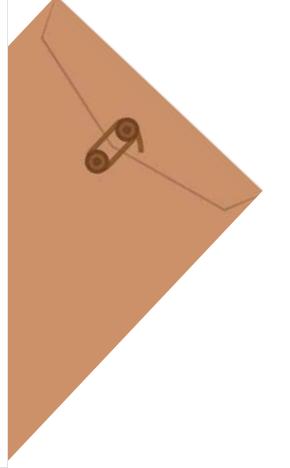
ご提出いただく紹介状(診療情報提供書)

様式は問いません。普段からご利用されている紹介状(診療情報提供書)でお受けいたします。ご用意がない場合には、以下の紹介状様式(複写式)をお送りいたしますので、ご用命の際は医療連携室まで必要部数をお申し付けください。



「医療連携室直通電話」03-3579-6963(平日 9:00~17:00)

診療性	青菊	设提供書								
						4	,	1	H	
地方独立行政法人										
東京都健康長寿医療センター			Ŧ		-					
28H	4									
		医療機関の								
医師名	t	所在地及び名称	_							
		25 107 84								
〒173-4015 東京都板橋区県町35 番 2 号		医肠名						-	Œ	
電話番号 63-2964-1141 (代表電話)			33							
03-3079-6903 (医療連携室底通)		電話番号	_			_	_		-	
FAX 参号 03-2984-1292 (医療連携室直通)		FAI番号	-						<u> </u>	
BEAK (5186)		2411		5-9	345	-	27.1		1.00	
		者・大・報・辛				В	0	*		
									7	
Estaty (E-E)	18.4	15							_	
BR E (ERXINE)										
all to th		167	8 m	-	- (8 - 9	lo_		,		
ROTALITERS			100000			_		- 1.50	F	
EESS/WESS/WESS			_						20	
								_		
									1	
-								_		
_								_	1	
								_	1	
								_		
								_		
現在小板力									1	
									1	



受診方法

当センターでは"全科予約制"を原則としております。受診をご希望される方は、外来予約専用電話に お電話いただき、ご予約をお取りください。その際に、受診されたい診療科名・ご希望の受診日時をお 知らせください。

「外来予約室専用電話」 03-3964-4890 (平日 9:00~17:00)

なお、夜間・休日などの予約外に緊急で受診をご希望の場合には、必ず事前に代表電話へご連絡くだ さい。

「代表電話」 03-3964-1141 (上記以外の時間帯)

受診時に必要なお持ち物

項目	紹介状	健康保険証	後期高齢者 医療被保険者証	介護認定証	難病等 公費負担医療証
はじめての 受診時のとき ※他の診療科を 受診する際も同様	前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	~	~	~	~
前回受診から 3か月以上経過 しているとき	前回受診時に 次回受診予約のある 場合は不要	~	~	~	~
毎月最初に受診するとき	×	~	~	~	~

紹介状(診療情報提供書)持参のお願い

初診の際は、かかりつけの先生の紹介状をお持ちのうえ、受付にお越しください。紹介状をお持ちで ない場合には、選定療養費(医科5.000円、歯科3.000円)をご負担いただきます。

当センターは、地域における急性期医療の基幹病院でありたいと考えております。そのため、慢性的 な病気や普段の健康管理はかかりつけの医療機関にお願いし、専門的な検査や診察・入院が必要な治療 を当センターが担当しております。

かかりつけの先生からの紹介状は、患者さんを知る有効な診療情報となりますので、できる限りお持 ちくださいますようお願い申し上げます。

ただし、緊急その他やむを得ない事情により、他の保険医療機関からの紹介によらず来院した場合に は、この限りではありません。

救急外来のご案内

当センターは、二次救急医療機関として24時間体制で、緊急対応を必要とする患者さんを中心に、救急診療 を行っております。東京消防庁とホットラインでの対応もしております。

医師が緊急処置中の場合や、患者さんの症状によっては診察できない場合がありますので、受診をご希望さ れる際は、必ずお電話にてお問い合わせください。電話 03-3964-1141 (代表)

受診にあたっての注意事項

救急外来で診察をご希望される場合は、以下の内容をご一読いただき、ご理解とご協力をいただきま すようお願いいたします。

- 診察の順番は、緊急度や重症度を優先しますので、お待ちいただく場合がございます。
- 救急車の利用有無は、診察順に関係ありません。
- 初期の診察は外来診察とは異なり、原則として救急の医師が行います。
- お薬の処方は、必要な分(休日分や一晩分)のみお出しします。
- 診断書等は、原則として救急外来では発行いたしません。後日、文書受付にてお申込みいただく 必要があります。(交通事故の診断書を除く。)

受診の流れ



代表番号(03-3964-1141)にお電話のうえ、 救急外来を受診されたい旨をお話しください。



受診にあたり、以下の内容を確認させていただきます。

- 受診される方の氏名・性別・年齢
- どのような症状で受診を希望されているか
- 当センターに受診されたことはあるか
- 当センターに来院まで何分くらいかかるか
- どのような交通手段で来院されるか
- どなたがお付添いとして来られるか



受診することが決まったら、以下のお持ち物をご用意ください。

- 健康保険証、医療受給者証・公費医療券(お持ちの方)
- 診察券(過去に当センターを受診したことがある方)
- お薬手帳(薬の説明用紙)、飲んでいるお薬(現物)



検査のご案内

地域医療機関の診療業務の充実を図るため、高度医療機器の共同利用事業を行っています。

検査項目:頭部・全身単純及び造影 CT

受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

検査項目:頭部・頚部・視神経・脊髄・前立腺等

MRI 受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

検査項目:脳血流SPECT、18FDG-PET

MIBG心筋シンチ、骨シンチ、Ga腫瘍シンチ、肺血流シンチなど

受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

骨塩定量

測定

RI

検査項目:腰椎、大腿骨、橈骨、全身

受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

検査項目: 【心臓超音波】心臓 【腹部超音波】腹部全般

【体表超音波】甲状腺・乳腺・その他体表

超音波

【血管超音波】頚動脈・四肢血管(動脈・静脈)

受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

検査項目:ホルター心電図

ホルター

受付時間:平日 10:00~16:00

心雷図 電話番号:03-3964-1141(代表)

※ 取り外しを行うため、検査翌日の来院が必要です。

24時間 自由行動下

血圧測定

検査項目:24時間自由行動下血圧測定 受付時間:平日 10:00~16:00

電話番号:03-3964-1141(代表)

※ 取り外しを行うため、検査翌日の来院が必要です。

※C@RNA Connect利用の場合24時間予約入力できます。

予約方法

- お電話または検査予約システム (P.13) にてご希望の検査予約をお取りください。
- 患者さんへ紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。(検査紹介である旨お書きください)

検査結果

- CT/MRIは、検査レポートを作成し、後日CDと共にご紹介元の医療機関にご郵送いたします。
- その他の検査は、ご紹介元の医療機関に返書をご郵送いたします。

電話受付時にお聞きすること

- ご紹介元の医療機関名・電話番号、患者さんのお名前・生年月日・電話番号(自宅等)
- 初診・再診であるか、検査部位(CT・MRIの場合は造影有無)

患者さんにお持ちいただきたいもの

- 健康保険証、後期高齢者医療被保険者証、難病等公費負担などの医療証(お持ちの方)
- 紹介状(診療情報提供書)
- 診察券(過去に当センターを受診されたことがある方)
- 造影剤使用の承諾書(造影CT/MRIの場合)



検査予約システムのご案内

当センターでは、オンラインで24時間ご利用が可能な<u>「検査予約システム(C@RNA Connect)」</u>を導入しております。これにより、いつでも・どこからでも専用サイトを通じて当センターの検査予約等が可能となります。

新規にご登録をご希望される場合には、当センターホームページより登録用紙をダウンロードのうえ、 医療連携室宛にお送りください。

■東京都健康長寿医療センターHP ⇒ 地域連携 ⇒ C@RNA Connectのご紹介 ⇒ 新規登録のご案内 https://www.tmghig.jp/hospital/community/carna-connect/registration/

主なサービス

- 放射線検査
 - CT検査 / MRI検査 / アイソトープ検査 / PET検査 / 骨密度測定
- 生理検査
 - 超音波検査 / ホルター心電図 / 24時間自由行動下血圧測定
- 各科診療予約 脳神経外科 / 心臓血管外科 / 外科外来・便潜血外来 / 内視鏡科 / 栄養指導外来

ご利用の流れ



ご利用のメリット

- 希望する検査内容の選択、患者情報などの入力だけで検査予約をお取りいただけます。
- お電話でお待たせすることがありません。
- 曜日や時間に関係なく、ご利用いただけます。
- 予約入力した情報で診療情報提供書を作成することができます。
- 次回以降のご予約は、以前の基本情報を引き継いでご利用いただけます。
- 予約票や同意書のプリントができます。
- ご利用に必要な費用は一切かかりません。(インターネット利用料は除く)



内科系	
公人 山彩	/ 古龄珍虔彩

診療科のご案内

総合内科/高齢診療科	15
膠原病・リウマチ科	17
腎臓内科	19
糖尿病・代謝・内分泌内科	21
循環器内科	23
呼吸器内科	25
消化器・内視鏡内科	27
脳神経内科/脳卒中科	29
血液内科/輸血・細胞療法科	31
感染症内科	33
精神科	35
緩和ケア内科	37
化学療法科	39

外科系

外科	41
血管外科	43
心臓血管外科	45
脳神経外科/脳血管内治療科	47
呼吸器外科	49
整形・脊椎外科	51
皮膚科	53
泌尿器科	55
眼科	57
耳鼻咽喉科	59
歯科口腔外科	61

中央診療部門

63
65
67
69
71
73

研修医

シニアレジデント	75
ジュニアレジデント	76

総合内科/高齢診療科

スタッフ紹介



総合内科部長

岩切 理歌 (いわきり りか)

出身:日本医科大学(H1卒) 専門:内科一般、血液疾患、老年医学

専門:内科一般、血液疾患、老年医学 資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医

·格:日本内科字会総合内科専門医・指導的 日本血液学会血液専門医

日本老年病学会認定老年病専門医・指導医



総合内科専門医長 在宅医療連携病床専門医長

大川 庭熙 (おおかわ ていき)

出身:東京大学(H21卒) 専門:循環器内科

【常勤医】

片岡 愛 (かたおか あい) 中山 智博 (なかやま ともひろ)

診療科の特徴

当科では加齢に伴う臓器の変化を考慮しながら、次のような診療に主に力を入れております。

- 症状の原因について精査し、治療が必要な場合には専門の診療科にお繋ぎします。
- 内服治療の整合性について確認します(ポリファーマシー対策)。
- 心身の活力について評価し、健康寿命を延ばす取り組みを行います(フレイル予防対策)。
- 医療や介護について正確な情報を提供し、多職種で協働し療養環境を調整します。

2020年に受診された患者さんの受診理由(図1)は、痛みや熱など急性症状を伴う患者さんが約半数、ふらつき感、食欲低下、筋力低下、物忘れ、倦怠感など、どの臓器に問題があるのかわからないような症状(老年症候群 図2)のため受診された方が約半数でした。

老年症候群は、治療すべき疾患のサインであることもあれば、すでに内服している薬が原因となっていることもあります。また、加齢に伴う変化を受け入れ、上手に付き合っていくしかない場合もあります。





■2 主

主な対象疾患

① 発熱、痛み、急な経口摂取不良など急性の症状

めまい・ふらつき、食欲低下、体重減少、疲労感、筋力低下、嚥下機能障害など老年症候群。必要に応じて検査を行い、専門的な治療が必要な場合には、専門の診療科をご紹介します。

② ポリファーマシー対策

内服中の薬による有害事象が出ていないか確認すると共に、処方されている薬が無理なく内服されている かどうかについても確認します。

③ フレイル予防対策

フレイルとは加齢により心身の活力が低下することです。体重減少、倦怠感、活動量、握力、歩行速度、 認知機能などを評価し、結果に応じて運動指導、栄養指導、社会参加への提案を行い、要介護状態に陥ら ない対策を立てます。

④ 在宅療養支援

嚥下機能の低下に応じた栄養指導(調理法も含め)を行い、介護が必要になった場合には、在宅担当看護師や医療ソーシャルワーカーが地域のケアマネジャーと連絡を取りながら生活環境の調整を行います。必要に応じて訪問診療医もご紹介します。

また、人生の最終段階をどう過ごすかについても、患者さんやご家族一人一人のお気持ちに寄り添いながら、助言や提案をさせていただきます。

得意とする分野-

ポリファーマシー対策に力を入れています

2020年に高齢診療科を受診した患者さんは平均5.5種類内服されていました。6種類以上の内服により、薬による有害事象が出現しやすくなると報告されていますが、40%以上の患者さんが6種類以上内服されていました。そして約4人に1人の患者さんにおいて、薬が関連する有害事象が疑われました。特に多い症状はめまい・ふらつき感でした。食欲低下、浮腫、口渇なども薬剤が原因となっている患者さんがおられました。

しかし、薬は生命を維持していく上で大変重要です。勝手に止めるわけにはいきません。薬を処方している 主治医と相談しながら、薬の内容や量について調整しています。

薬についての相談はポリファーマシー外来においても承ります。

膠原病・リウマチ科

スタッフ紹介



膠原病・リウマチ科部長

久保 かなえ (くぼ かなえ)

出身:神戸大学(H7卒)

専門:関節炎疾患、膠原病・血管炎症候群および関連疾患、

それに伴う腎障害 資格:総合内科専門医

リウマチ専門医・指導医

腎臓専門医 難病指定医

日本リウマチ学会 評議員

【常勤医】

小林 聖未 (こばやし さとみ)

診療科の特徴

膠原病は関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、シェーグレン症候群などを総称した疾患群で、代表的な自己免疫疾患です。疾患によって特徴的な自己抗体を認め、全身の様々な臓器に疾患特有の臓器障害が起きます。リウマチ性疾患は関節、筋、腱などの骨格系の症状を伴う疾患群で、関節リウマチを代表格として、リウマチ性多発筋痛症、乾癬などの皮膚病に伴う関節炎、脊椎関節炎、痛風・偽痛風など多くの疾患を含みます。

当科では自己免疫疾患、リウマチ性疾患と言われる多くの疾患を対象とし、幅広い年齢に発症する様々な臓器障害に対して他の専門科と連携して診断治療を行っています。多くが慢性疾患ですので、長期的な治療を必要とします。当科では若い方から高齢の方までのライフスタイルを考えた診療を心掛けるとともに、各年齢特有の病態や合併症を考慮し、健康寿命を延ばすような治療方針を目標にしています。

このような症状があれば受診またはご紹介ください。

- 関節の痛みが続く、または関節の動きが悪い
- 筋痛が続く
- 発熱や倦怠感が続く
- 血液検査の炎症反応が続く原因がわからない
- 寒いときに手指が白くなる
- 顔や手足の皮疹が続く
- □腔内潰瘍など粘膜症状を繰り返す
- 原因不明の胸の痛みや腹痛
- 上記の症状に加えてタンパク尿などの尿異常を認める
- 上記の症状に加えて白血球・血小板減少や貧血などの血球減少を認める
- 抗核抗体、抗DNA抗体、リウマトイド因子、抗CCP抗体などの自己抗体陽性
- 血栓症を繰り返す(特に若年から)
- 習慣性流産
- 急速進行性糸球体腎炎やネフローゼ症候群
- 膠原病や血管炎症候群に伴う腎障害
- 膠原病に伴う肺疾患
- 膠原病に伴う肺高血圧症疑い
- 膠原病に伴う末梢神経症状や中枢神経症状

予約診療を行っています。初診の際には事前の予約をお願いします。医療機関からの緊急受診のご相談は医療連携室を介してお受けいたします。

主な対象疾患

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、全身性強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、抗リン脂質抗体症候群、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群(高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、悪性関節リウマチ、クリオグロブリン血管炎、IgA血管炎など)、リウマチ性多発筋痛症、ベーチェット病、成人発症スティル病、脊椎関節炎(強直性脊椎炎など)、乾癬性関節炎、IgG4関連疾患、サルコイドーシス、再発性多発軟骨炎など

上記以外の疾患でも対応しているものがあります。

得意とする分野-

- 高齢者の身体機能・認知機能を考慮し、最適化したリウマチ性疾患治療
- 関節エコーやMRIを用いた滑膜炎評価
- 膠原病や血管炎に伴う腎障害の診断治療

腎臓内科

スタッフ紹介



腎臓内科部長

武井 卓(たけい たかし)

出身:新潟大学(H7卒)

専門:腎臓内科疾患全般、腎炎、ネフローゼ症候群

資格:日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓病学会専門医・指導医・評議員

日本透析医学会認定専門医・指導医



血液透析科部長 腎臓内科専門部長

板橋 美津世 (いたばし みつよ)

出身:東京女子医科大学(H8卒)

専門:腎臓内科疾患全般、急速進行性糸球体腎炎

資格:日本内科学会認定医

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会専門医・指導医・評議員 日本透析医学会専門医・指導医

【常勤医】

山中 法子 (やまなか のりこ)

診療科の特徴

当科の特徴は、腎疾患の中でも高齢者に多い慢性腎臓病、急性腎障害、難治性ネフローゼ症候群、難治性血管炎・膠原病に伴う腎障害に力を入れています。高齢者では腎臓の働きが正常の方でも若年成人に比べて約70%まで低下していくと言われています。そのため、ひとたび腎臓病を生じると末期腎不全へと進行し、透析治療を受ける危険性が出てきてしまいます。年々増え続ける腎臓病を早期発見し、個々の患者さんに合わせた適切な治療を行い、末期腎不全への進展抑制に努めます。当科の診療ポリシーは「患者さんを中心に考える」ということです。患者さんの家族を含め、皆が納得できる診療をめざしたいと思います。

主な対象疾患

● 慢性腎臓病(CKD)/蛋白尿、血尿/腎機能障害:

慢性腎臓病とは何らかの障害3か月以上持続する場合と定義されています。症状が出現することはほとんどなく、尿所見異常や腎機能異常により診断されます。健康診断などで蛋白尿、血尿やeGFR低下を指摘されましたら早めに受診してください。

● 腎硬化症:

高血圧、脂質異常症、動脈硬化によって生じます。慢性腎臓病の原因です。

- 糖尿病性腎症、糖尿病性腎臓病:糖尿病によって生じます。慢性腎臓病の原因です。
- 急性腎障害(AKI):

急性腎障害とは、数時間~数日の間に急激に腎機能が低下する状態です。高齢者は体内の水分量が少なく、口渇感の低下、水分摂取量低下があり、急性腎障害を生じやすい状況にあります。また、鎮痛薬など多くの薬剤の内服により急性腎障害を生じる場合もあります。尿量減少、むくみ、だるさ、頭痛など普段と違う症状に気づきましたら早めに受診してください。

ネフローゼ症候群:

ネフローゼ症候群とは、尿にタンパクがたくさん出てしまうために、血液中のタンパクが減り(低たんぱく血症)、その結果、むくみ(浮腫)が起こる疾患です。原因はさまざまです。

● 急速進行性腎炎症候群:

腎臓の糸球体に高度の炎症が起きて、血尿や蛋白尿が出現し、数日~数週間の間に急速に腎機能が低下 して腎不全になってしまう予後の悪い疾患です。高齢者に多いのが特徴です。

● 難治性血管炎(ANCA関連血管炎など):

急速進行性腎炎症候群として生じることが多く、腎臓以外の血管にも炎症を起こすことがあり、肺炎や肺出血、皮膚の出血斑、神経炎を合併することがあり、早急な治療が必要となります。

- 膠原病に伴う腎障害
- 多発性嚢胞腎 など

得意とする分野ー

- 高齢者の腎臓病に対する診療に実績があります。
- 急性腎障害:新規バイオマーカーなどにより早期に発見し対処しています。
- 慢性腎臓病:腎機能を正確に把握し、透析を回避するために何ができるかを患者さんと一緒に考え、治療しています。栄養相談も行っています。
- 透析療法:腎代替療法が必要になってしまった場合には、適切な治療法(血液透析、在宅透析(腹膜透析))を相談し、できる限り生活の負担がないように選択します。当院における血液透析法はオンライン HDFを実施しています。維持透析では運動療法などを取り入れフレイルの防止に努めています。
- 難治性ネフローゼ症候群、難治性血管炎・急速進行性腎炎症候群 副作用に苦しむことのないようステロイド使用の工夫や分子標的薬・免疫抑制薬により効率よく治療を 行っています。
- 膠原病に伴う腎障害

分子標的薬の使用および血漿交換や血液吸着など多くの治療法を行っています。

糖尿病・代謝・内分泌内科

スタッフ紹介



副院長(内科総括部長兼務)

荒木 厚 (あらき あつし)

出身:京都大学(S58卒)

専門:糖尿病、老年医学、病態栄養、とくに高齢者の糖尿病治療

資格:糖尿病学会専門医・指導医

老年病学会専門医・指導医・代議員 病態栄養学会専門医・指導医・評議員 日本糖尿病合併症学会評議員

内科学会総合内科専門医・指導医

糖尿病協会療養指導医



糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長 救急診療部専門部長

嘉章 (tabb) slabe)

出身:東京大学(H8卒)

専門:糖尿病、代謝、內分泌疾患、老年医学

資格:日本内科学会認定総合内科専門医・研修指導医

日本糖尿病学会認定糖尿病専門医・指導医 日本内分泌学会認定内分泌代謝科(内科)専門医・指導医

日本老年医学会認定老年病専門医・指導医

日本医師会認定産業医

日本老年医学会代議員

日本動脈硬化学会指導医・評議員



糖尿病・代謝・内分泌内科専門部長

千葉 優子 (5ti ゆうこ)

出身:群馬大学(H7卒)

専門:糖尿病、内分泌代謝、老年医学

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医

日本内分泌学会専門医・指導医

日本老年医学会専門医・指導医・代議員



糖尿病・代謝・内分泌内科医長

堅志 (とよしま けんじ)

出身:東京医科歯科大学(H16卒) 専門:糖尿病、老年医学 資格:日本内科学会認定内科医

日本老年医学会認定老年病専門医 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医

【常勤医】

小寺 玲美 (こでら れみ) 大庭 和人 (おおば かずひと) 舘鼻 彩 (たちばな あや)

診療科の特徴

当科は、高齢者の糖尿病治療では、伝統のある全国でも有数の施設の一つです。糖尿病、内分泌の教育認定 施設で学会の専門医・指導医が複数在籍し、診療を行っています。

また、脳神経内科・脳卒中科や循環器内科などの他科と連携して、合併症の評価や治療を行っています。当 科では、「糖尿病を通して患者さんの全身を診ること」をモットーとしています。

以下のような診療の特徴があります。

- 個別性を重視した治療:認知機能、身体機能、社会環境、低血糖の起こりやすさ、腎臓の働きなど、患者 さんの様々な条件を評価して、治療の方法を考え、QOL重視の医療を行っています。
- 柔軟性のある治療:2型の糖尿病患者さんでインスリン治療が困難な場合、独自の方法でインスリンの離 脱や注射回数の減少などを試みています。
- 最新の治療:1日の皮下グルコースの変動を連続してみることができる持続グルコースモニタリング (CGM)、フラッシュグルコースモニタリング(FGM)が行えるほか(いずれの検査にも条件がありま す)、1型糖尿病患者へのインスリンポンプの導入も可能です。さらにCGMとインスリンポンプの併用であ るSAP (Sensor Augmented Pump) 療法も行えるようになりました。
- チーム医療:糖尿病認定看護師や糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、栄養士、薬剤師がおり、医師と チームで食事、運動、服装、インスリン注射、血糖測定、フットケアなどの指導をしています。
- 糖尿病の教育:入院糖尿病教室を毎週1回行っています。また患者会(育寿会)の活動も盛んであり、会 員と連携しながら外来糖尿病教室(年3回)や運動教室(月1回)を行っています。
- 内分泌疾患も甲状腺をはじめ下垂体や副腎疾患など豊富に扱っております。

主な対象疾患

- 糖尿病:2型糖尿病、1型糖尿病、その他の糖尿病
- 境界型耐糖能異常
- メタボリックシンドローム、肥満
- 低血糖:インスリノーマ、腫瘍性低血糖、薬剤性低血糖、内分泌疾患による低血糖、ダンピング症候群など
- 脂質異常症:高コレステロール血症、高中性脂肪血症
- 甲状腺疾患:甲状腺機能低下症、橋本病、甲状腺機能亢進症、バセドウ病、甲状腺腫瘍
- 副腎疾患:アジソン病、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、副腎腫瘍
- 下垂体疾患:汎下垂体機能低下症、尿崩症、下垂体腫瘍
- 骨粗鬆症

得意とする分野

【フットケア外来】

糖尿病の神経障害や血管障害は、潰瘍や壊疽などの足の合併症を発症する要因となります。フットケア外来 は糖尿病看護認定看護師らが足の合併症の予防を行う外来です。

医師により足病変のリスクが高いと判断された患者さんを対象にしています。

- ① 神経障害や下肢末梢動脈疾患(PAD)を合併し、かつ病状が安定している
- ② 足潰瘍・壊疽の既往がある
- ③ 腎不全や透析療法を受けているが、足の合併症リスクが高い患者

依頼があった患者さんのお話を伺い、その原因となる足の状態、履物、生活背景、糖尿病の状態について確 認します。その上で足病変の悪化・再発予防となる具体的な方法のセルフケア指導(または家族指導)を行い、 糖尿病患者さんの足を一緒に守ることを目指します。

(ご利用方法)

- ① 糖尿病・代謝・内分泌内科宛の紹介状を作成いただき、予約センターでご予約をお取りください。
- ② 医師の診察後、医師から認定看護師へコンサルトを行います。
- ③ 治療終了後は報告書を作成し、紹介いただいた先生のもとで診療を継続していただきます。

スタッフ紹介



副院長

原田 和昌 (はらだ かずまさ)

出身:東京大学(S60卒) 専門:心不全、冠動脈疾患、高血圧

資格:循環器専門医・日本循環器学会地方評議員 老年病専門医・日本老年医学会代議員

高血圧専門医・日本高血圧学会評議員 認定内科医

日本心臓病学会FJCC



循環器内科専門部長、救急診療部長

坪光 雄介 (つぼこう ゆうすけ)

出身:獨協医科大学(H5卒)

閉塞性動脈硬化症に対する血管再生医療、心不全

日本心血管インターベンション治療学会専門医

内科学会認定内科医



循環器内科医長

石山 泰三(いしやま たいぞう)

出身:東京医科大学(H8卒)

専門:循環器内科学,不整脈

資格:日本内科学会認定総合内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医

日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医

植込み型除細動器/ペーシングによる心不全治療研修修了

身体障害者指定医(心臓機能障害)



循環器内科専門医長

村田 哲平 (むらた てっぺい)

出身:東京慈恵会医科大学(H17卒) 専門:循環器救急、集中治療 資格:日本内科学会総合内科専門医

日本循環器学会循環器専門医

日本心血管インタベーション学会専門医

日本救急医学会救急専門医 日本集中治療医学会集中治療専門医

日本脈管学会脈管専門医

腹部ステントグラフト実施医・指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

ICLSインストラクター・コースディレクター

JMECCインストラクター、日本DMAT隊員



循環器内科部長

石川 譲治(いしかわ じょうじ)

出身:自治医科大学(H6卒)

専門:循環器内科、高血圧(低血圧)、心臓超音波検査、心不全

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本循環器学会循環器専門医 日本超音波医学会超音波専門医

日本高加圧学会専門医・指導医・評議員・特別正会員

日本老年医学会認定老年病専門医

身体障害者指定医 (心臓機能障害)



循環器内科担当部長

藤本 肇 (ふじもと はじめ)

出身:東京大学(H8卒)

専門: 冠動脈インターベンション治療. 心不全

資格:日本心血管インターベンション治療学会専門医

総合内科専門医

ICD・CRT植え込み登録医



循環器内科医長

青山 里恵 (あおやま りえ)

出身:日本医科大学(H17本)

専門:冠動脈インターベンション、心不全、心筋症、高血圧症 資格:日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医

日本心血管インターベンション学会専門医

日本老年医学会老年病専門医・指導医

日本脈管学会認定脈管専門医、日本高血圧学会高血圧専門医

日本核医学学会核医学専門医

身体障害者指定医 (心臓機能障害) 植込み型除細動器/ペーシングによる心不全治療研修修了

日本医師会認定産業医、医学博士

浅大腿動脈ステントグラフト実施医



循環器内科専門医長

小川 雅史 (おがわ まさし)

出身:東京医科大学(H13卒) 専門:虚血性心疾患

心臓リハビリテーション 資格:日本内科学会認定医

日本循環器学会専門医

【常勤医】

杉江 正光 (すぎぇ まさみつ) **鳥羽 梓弓** (とば あゆみ) **十菱 千尋** (じゅうびし ちひろ)

清水 瑠理(しみず るり) 小松 俊介 (こまっ しゅんすけ)

診療科の特徴

循環器内科の外来は平日すべて開設しております。原則予約制ですが、予約外で受診をご希望される際はま ずお電話でご連絡ください。当センターの循環器内科は東京都CCUネットワークおよび大動脈スーパーネット ワークに加盟しております。夜間・休日も循環器内科当直医を置き、24 時間体制で救急患者の受け入れを行い、 緊急カテーテル治療にも対応しております。状態が安定すればお近くの病院・開業医の先生と連携を取りなが ら治療を継続いたします。対象疾患は循環器疾患のそれぞれの分野において専門的知識・技術を有するスタッ フを擁しております。特に弁膜症、不整脈、高血圧に関しては専門外来も設けて診療を行っています。

当センターは高齢の心不全で入院される患者さんが多いのが特徴です。高齢者は多臓器に合併症を有するこ とが多く、認知機能障害、筋肉量低下、運動機能の低下が認められ、生活の質が低下してしまうことがありま す。高齢患者さんに対して個々の状態に応じて全身的な観点から診療し、患者さんの生命を守り、疾患の発症 や再発予防に加えて、生活の質も維持するように心がけています。

主な対象疾患

- 心不全:心臓の機能が低下して、血液を送り出すポンプの働きが十分できなくなる状態です。薬物治療、 場合によってはデバイス治療(大動脈バルーンパンピング、インペラ、補助循環、両心室ペーシング)、手 術なども検討します。当センターでは、心不全治療に対して、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、 臨床工学技士、ソーシャルワーカーなどが連携しながら、総合的に対応いたします。
- 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞):心臓の筋肉に血液を送る冠動脈が動脈硬化や攣縮によって狭窄・閉 塞する病気で、薬物治療・カテーテル治療・外科的手術を行います。外科的な冠動脈バイパス術が必要と判 断された場合には、心臓外科と協力しながら治療を行います。
- 不整脈(心房細動・心房粗動・上室性頻拍・心室頻拍などの頻脈性不整脈、完全房室ブロック・洞不全症 候群などの徐脈性不整脈があります):心臓内に電気の伝導路ができて頻脈になったり、電気の伝わりが悪 くなって徐脈になったりして、動悸・息切れ・失神などの症状が現れます。原因となる電気伝導路を焼灼(ア ブレーション)や、ペースメーカー植込み術などを行います。
- 心臓弁膜症(僧帽弁閉鎖不全・狭窄症、大動脈弁閉鎖不全・狭窄症など):弁が緩んだり硬化することに よって、血液が逆流したり通過障害をきたしたりする状態です。当センターは経カテーテル的大動脈弁置換 術の施設認定を受けています。外科的弁膜症手術が必要であると判断された患者様は、心臓外科との協力で 治療を行います。
- 心筋症(拡張型心筋症・肥大型心筋症・アミロイドーシス、心サルコイドーシスなど)の診断治療も可能 です。肥大型閉塞性心筋症に対する経カテーテル的心室中隔焼灼術も行っています。
- 深部静脈血栓・肺塞栓:下肢静脈に血栓が生じると、肺に塞栓を起こすことがあります。当院では肺塞栓 の診断治療において一時的下大静脈フィルター挿入や体外循環を用いた治療も行うことが可能です。
- 高血圧:24時間自由行動下血圧測定を行い、積極的に仮面高血圧や白衣高血圧の診断を行っています。 また、高齢者に多いとされる起立性低血圧や食後低血圧、フレイル(虚弱)、筋肉減少症(サルコペニア)、 認知機能なども評価し、総合的に血圧管理しています。

得意とする分野

- 心不全:非高齢の心不全患者に対しては、薬物治療だけでなく、場合によっては上記のデバイス治療や外 科的な治療も行っています。当センター入院患者は高齢であり(65歳以上が88.9%、75歳以上が68.9%)、 高齢心不全患者に対しては、利尿剤・心保護薬、強心薬などを用いた心不全の薬物治療に加えて、認知機能、 フレイル、社会背景などを考慮しながら、多職種で総合的に心不全管理を行っています。
- 虚血性心疾患:2020年度はカテーテル治療を533 例施行しました。その中で経カテーテル的冠動脈形成術 は244件でした。ロータブレーターも11件施行しました。
- 不整脈: 2020年度はカテーテルアブレーションを36件、ペースメーカー植込み術(交換を含む)を78件 施行しました。
- ◆ 大動脈疾患:東京都の大動脈スーパーネットワークの支援施設であり、大動脈解離・大動脈瘤に対し、内 科的治療を行うとともに、手術適応がある場合には心臓外科へ紹介し、迅速な対応を行っています。
- 高血圧:24時間自由行動下血圧測定は年間286件でした。起立性低血圧や食後低血圧に対する新しい診断 治療も試みています。

呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長

山本 寛 (やまもと ひろし)

出身: 東京大学 (H9本) 専門:呼吸器疾患全般、高齢者肺癌

資格:日本内科学会総合内科専門医

日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医

日本老年医学会老年病専門医・指導医・代議員

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

肺がんCT検診認定機構認定医

東京都身体障害者福祉法第15条指定医(呼吸器機能障害)

東京大学医学部生理学教室非常勤講師



呼吸器内科専門部長

山田 浩和 (やまだ ひろかず)

出身:山型医科大学(H4本)

専門:呼吸器疾患全般、アレルギー疾患、膠原病、びまん性肺疾患 資格:日本内科学会認定医

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本アレルギー学会アレルギー専門医・指導医

日本リウマチ学会リウマチ専門医

日本医師会認定産業医

インフェクションコントロールドクター 東京都身体障害者福祉法第15条指定医 (呼吸器機能障害) (肢体不自由)

【常勤医】

佐塚 まなみ (さづか まなみ) 石橋 昌幸 (いしばし まさゆき) 野木森 智江美 (のぎもり ちえみ)

診療科の特徴

呼吸器内科では、呼吸器専門医、がん治療認定医、気管支鏡専門医、アレルギー専門医、総合内科専門医、 老年病専門医の立場から、各種呼吸器疾患の包括的な診断と治療・ケアを行っております。特に高齢者肺癌に ついては、最新の診療ガイドラインに則りつつ、症例に応じた手術、薬物療法(細胞障害性抗癌剤、分子標的 薬、免疫チェックポイント阻害薬)、放射線治療、支持療法を行っていることが当院の最大の特徴で、高齢者 の多病・多様性に配慮して、生活環境に即した治療を行い、生活の質を最大限維持できるよう努めています。 また、院内の他職種と連携し、患者さんそれぞれの背景に配慮した包括的な診療を行っています。

主な対象疾患

原発性肺癌、転移性肺癌、胸膜中皮腫、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、気管支喘息、肺結核後遺症、気管 支拡張症、睡眠時無呼吸症候群など、ほとんどすべての高齢者呼吸器疾患に対応しています。

得意とする分野

入院患者の約6割が原発性肺癌、ないしその疑いのある患者さんです。当院の患者さんは平均80歳弱です。 単に寿命を延ばすことを目標とせず、「今の生活をできるだけ長く続けられる」方法を、患者さんそれぞれの 元気さ、合併症の有無、ご本人・ご家族のご希望などを考慮し、患者さんとよく話し合った上で決めています。 手術が可能と思われる患者さんについては、呼吸器外科と協力して胸腔鏡を中心とした比較的侵襲度の低い手 術をお勧めすることもあります。放射線治療や抗癌剤治療はもちろん、免疫チェックポイント阻害薬、分子標 的治療薬による治療も積極的に行っています。症状緩和のために必要な治療や環境整備には、逐次、迅速に対 応するようにしています。診断の主役となる気管支鏡検査(2018~2020年度実績:計344例)に関しては、 チャネル径の太い処置用内視鏡を軸に、細径、極細径まで取り揃え、様々な病変の診断に対応しています。仮 想気管支鏡(図1)やガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)を用いた末梢病変の正確な診断 (図2) やEBUS-TBNA (超音波気管支鏡下経気管支リンパ節穿刺法) によるリンパ節病変の診断 (図3) も得 意としています。合併症をお持ちの方がほとんどですが、安心と安全には十分に配慮して検査を行っています。 肺癌の薬物療法はほぼすべてに対応可能で、多くの患者さんは外来で化学療法を行い、平常の日常生活活動を 続けながら治療を受けられています(2020年度実績:152例)。

図1

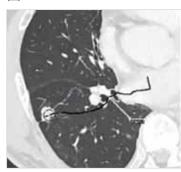




図2



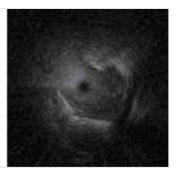


図3



消化器・内視鏡内科

スタッフ紹介



消化器・内視鏡内科専門医長

|松川 美保 ほつかわ みぼ)

出身:群馬大学(H18卒) 専門:内視鏡科 資格:日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本内視鏡学会専門医

総合内科専門医



消化器・内視鏡内科顧問 保険指導専門部長

葦沢 龍人 (あしざわ たつと)

出身:東京医科大学(S54卒) 専門:消化器領域、消化器外科、総合診療科 肝臓内科(特にB型慢性肝炎、C型慢性肝炎) 資格:日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝臓学会専門医・指導医 日本病院総合診療医学会認定医 日本抗加齢医学会専門医 消化器が人外科治療認定医

【常勤医】

羽鳥 清華 (はとり せいか) 大隈 瞬 (おおすみ しゅん)

診療科の特徴

消化器・内視鏡内科では、内視鏡治療、各種抗癌剤治療、薬物治療等、あらゆる消化器疾患に対応できるような体制を整えております。さらに、高齢者の多い当院の特徴に即して、高齢者の病態を考慮し、安全かつ負担のない治療が行えるよう工夫しています。

- 鎮静剤を使用し、苦痛のない上下部内視鏡検査を行っております。認知症があり、自宅での下剤内服等 に不安のある方でも安心して検査を行って頂けるような、短期入院制度を取り入れております。
- 食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌に対して、手術と比較して低侵襲である、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) を積極的に行います。
- 高齢者に多い、総胆管結石胆管炎や、胆膵悪性腫瘍に対して、内視鏡的逆行性膵胆管造影術(ERCP)を行い、診断や治療を多数行っています。
- 膵癌を始め、悪性リンパ腫、胃粘膜下腫瘍、肝腫瘍、胆管癌や胆嚢癌、腫大リンパ節等を穿刺し、病理学的診断をつける、超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)も豊富に行っております。
- 肝炎ウィルス治療や、肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術(RFA)、動脈塞栓術(TAE)も可能です。

主な対象疾患

- 腫瘍性疾患:食道癌、胃癌、十二指腸癌、大腸癌、膵癌、膵嚢胞性腫瘍、胆管癌(胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌)、肝細胞癌、神経内分泌癌など
- 消化管疾患:逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、直腸潰瘍、憩室炎、虚血性腸炎、憩室出血、消化 管異物誤飲、腸閉塞、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、好酸球性胃腸症など
- 胆膵疾患:総胆管結石、胆管炎、胆嚢炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、硬化性胆管炎など
- 肝疾患:肝膿瘍、ウィルス性肝炎、薬剤性肝炎、自己免疫性肝炎など

得意とする分野・

- ESD治療は、例年80件超を施行しています。特に、2017年度は、過去最高の139件を記録しました。 部位も、食道、胃、十二指腸、大腸と幅広く対応可能です。
- EUSは膵臓のみならず、リンパ節、胃粘膜下腫瘍、肝腫瘍、胆嚢癌や胆管癌の穿刺も行い、高い診断率を得ております。さらに、膵炎後被包化壊死の穿刺ドレナージ術や、EUS-ランデブー法等インターベンショナルEUSも可能です。
- ERCPは高齢者の多い病院の特性上、総胆管結石に伴う胆管炎の緊急入院が非常に多く、例年ERCP総数は200件程度で推移しています。良性疾患のみならず、悪性胆道狭窄に対し、金属ステントの留置も多数行っています。
- 消化管の悪性狭窄を来した方にも、金属ステントを留置し、経口摂取が可能となる可能性があります。 食道、胃、十二指腸、大腸の狭窄に対応可能です。当院では消化管ステントの経験数も非常に多い現状で す。

脳神経内科/脳卒中科

スタッフ紹介



脳神経内科部長

岩田 淳 (いわた あつし)

出身: 東京大学(H5本) 専門:認知症性疾患、パーキンソン病、脊髄小脳変性症

資格:総合内科専門医

日本内科学会認定医 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医

日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医

日本認知症学会専門医・指導医

日本認知症予防学会認知症予防専門医



脳神経内科専門部長 (脳卒中A担当部長)

仁科 裕史 (にしな やすし)

専門:脳神経内科疾患全般、脳卒中、認知症

資格:日本神経学会認定神経内科専門医・指導医

日本内科学会認定内科医 認知症学会専門医・指導医

日本内科学会認定総合内科専門医



脳神経内科医長

井原 涼子 (いはら りょうこ)

専門:認知症性疾患、臨床研究全般

資格:総合内科専門医

日本内科学会認定医

日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 日本認知症学会専門医・指導医

【常勤医】

波多野 敬子(はたの けいこ) **松川 美穂**(まっかわ みほ) **栗原 正典**(くりはら まさのり)



脳卒中科部長

金丸 和富 (かねまる かずとみ)

出身: 克都大学 (S58卒)

専門:脳神経内科疾患全般

資格:日本神経学会認定神経内科専門医・指導医

日本内科学会認定内科医 認知症学会専門医・指導医



脳神経内科医長

真奈 (ひがしはら まな)

専門:ALS・運動ニューロン疾患・神経筋疾患、電気診断(神経伝導検査、

針筋電図、単線維筋電図、誘発電位など)

資格:日本内科学会認定内科医

日本神経学会専門医・指導医 日本臨床神経生理学会専門医・指導医

診療科の特徴

脳梗塞急性期診療からパーキンソン病を代表とする神経変性疾患、アルツハイマー病を代表とする認知症性 疾患、筋炎やギラン・バレー症候群を代表とする神経・筋疾患まで幅広く対応しています。

また、脳梗寒急性期診療(6床のStroke Care Unit(SCU)をもち、血管内治療も実践しています。)を脳神経 外科と24時間体制で行っており、板橋区内で最多の実績があります。

超急性期、発症から3-4.5時間以内で適応が有る症例には、tPA治療を行っています。

脳血管障害の急性期からリハビリテーションまで多職種スタッフとともに包括的診療を行っています。 地域連携として早期に回復期リハビリテーション病院へ転院できるよう、周辺施設と密に連絡をとり、早期 転院を実現しています。

- パーキンソン病およびパーキンソン病関連疾患(多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症 等)などの日常生活レベルの障害を来す疾患に対して、専門的特殊検査を外来や短期入院にて行い、診断と 治療に力を入れています。
- 物忘れや認知症の専門的特殊検査を外来や短期入院にて行い、もの忘れを来す疾患のより正確な診断を 心がけています。その結果、ご希望される方には治験を御紹介しています。
- 筋萎縮性側索硬化症の専門外来では、リハビリテーション医、栄養士、ソーシャルワーカーと連携した 診療を行っています。
- 神経・筋疾患についても、電気生理検査や筋(神経)生検により精査し治療しています。筋電図検査は C@RNA Connectまたは医療連携室からの外部予約も受け付けています。
- 眼瞼痙攣に対してのボツリヌス治療を行っています。
- 単なる症状の疾患の治療のみでなく、機能障害や生活の場を視点に入れた包括的医療を目指しています。
- 頭部PET画像検査を含めた画像解析、脳脊髄液採取による詳細な神経化学分析、電気生理学的診断など 高度の専門性に裏づけられた綴密な診断とそれに基づいた治療を行っています。
- 精神神経科と共同で物忘れ外来を併設しています。
- 神経学的疾患のみならず、他疾患に合併する神経障害についても診療しています。
- 神経疾患に対して胃ろう造設や胃ろうチューブ交換を行っています。
- 神経内科専門医取得に向けての研修指導体制も確立しています。
- 病気の最初から最後まで患者に寄り添い、剖検による最終診断で最後の貢献をし、得られたリソースで 根治療法の開発を目指すことを理念としています。
- 地域へ最大限貢献するため、新規患者のための外来の待ち期間を最短にする努力をしています。 安定した方は積極的に紹介元の先生に継続での診療を行って頂く病診連携を取り入れています。

主な対象疾患

- 脳血管障害・脳梗塞の急性期、脳卒中の再発予防
- 脳炎・髄膜炎・脊髄炎の診断・治療
- 神経変性疾患(パーキンソン病、多系統萎縮症、進行性核上性麻痩、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)
- もの忘れや認知症(アルツハイマー病、レビー小体型認知症)
- 機能性疾患(てんかん、頭痛、めまいなど)
- 神経免疫疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症)
- 神経・筋疾患(ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、筋炎など)
- 内科的疾患に伴う神経症状、薬剤に起因する神経筋症状

得意とする分野

- 脳梗塞の急性期治療、内科的管理、再発防止
- パーキンソン病や関連疾患など神経変性疾患全般の診断と治療
- 認知症疾患の診断と治療
- 神経筋疾患の診断と治療

血液内科/輸血・細胞療法科

スタッフ紹介



血液内科部長

宮腰 重三郎 (みやこし しげさぶろう)

出身:聖マリアンナ医科大学 (S59卒)

専門:血液学、造血幹細胞移植

資格:日本内科学会認定内科医

日本血液学会血液専門医・指導医

日本老年医学会代議員

日本老年医学会認定 老年病専門医・指導医

日本造血·免疫細胞療法学会評議員 日本造血·免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医



血液内科医長

小倉 和外 (おぐら かずと)

出身:防衛医科大学(H10卒) 専門:血液学、造血幹細胞移植

資格:日本内科学会認定内科医

日本内科学会総合内科専門医 日本血液学会血液専門医・指導医

日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医

日本輸血・細胞治療学会認定医



血液内科専門部長 輸血・細胞療法科部長

小林 寿美子 (こばやし すみこ)

出身:日本大学(S61卒) 専門:血液学、造血細胞移植、輸血学、HIV感染症

資格:日本内科学会認定内科医・指導医 日本内科学会認定総合内科専門医

日本血液学会認定専門医・指導医

日本輸血細胞治療学会認定医・評議員

日本移植学会認定認定医 日本造血·免疫細胞療法学会評議員·造血細胞移植認定医

日本エイズ学会認定認定医・指導医 日本輸血学会・造血細胞学会認定

細胞治療認定管理師

難病指定医・小児慢性疾患特定疾病指定医

日本骨髄移植推進財団調整医師/連絡責任医師/採取責任医師が心診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

米国血液学会会員



血液内科医長

輔 (さいとう たすく)

出身:聖マリアンナ医科大学 (H15卒) 専門:血液学、造血幹細胞移植 資格:日本内科学会認定内科医

日本血液学会血液専門医 日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医

診療科の特徴

【血液内科】

- ・ 2006年11月より造血幹細胞移植を導入し、高齢者に対する血液悪性疾患に対する臍帯血移植の実績を上 げております。直近では2017年1月1日より、日本骨髄バンクならびに日本造血細胞移植学会による認定 施設(カテゴリーI)に認定され、全ての移植診療科、骨髄バンクドナー細胞採取が可能となり積極的に取 り組んでおります。高齢者が中心ではありますが、主治医制であり、65歳未満を得意にしている医師もお ります。
- 4名全員が日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会認定医
- 全国から高齢者移植に関するセカンドオピニオン(4名共)を行っております。

【輸血・細胞療法科】

- ・ 担当2名が日本輸血細胞治療学会認定医師
- ・ 認定技師2名を含む技師5名体制
- 血縁ならびに非血縁者間同種造血幹細胞移植における血液型不一致移植時の各種細胞プロセッシング業 務ならびに自家末梢血幹細胞採取
- 臍帯血移植の保存管理
- 間葉系幹細胞の調整出庫

主な対象疾患

- 急性白血病
- 慢性白血病
- 骨髄異形成症候群
- 悪性リンパ腫
- 多発性骨髄腫
- 再生不良性貧血
- 特発性血小板減少症
- 各種貧血
- 高齢者の急性白血病ならびに骨髄異形成症候群に対する造血幹細胞移植
- HIV感染症

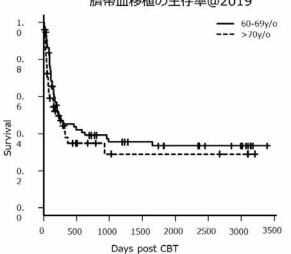
得意とする分野

同種造血幹細胞移植

2006年11月から2019年12月までの移植実績

自家移植	8例
血縁者間同種移植	23例
非血縁者間同種移植	12例
非血縁者間臍帯血移植	191例
合計	234例

2008-2018 60歳代と70歳代における 臍帯血移植の生存率@2019



感染症内科

スタッフ紹介



感染症内科医長

小金丸 博 (こがねまる ひろし)

出身:筑波大学(H13卒) 専門:感染症一般

資格:日本内科学会総合内科専門医

日本原染症学会感染症専門医、 ICD(インフェクション・コントロール・ドクター) 身体障害者指定医(ヒト免疫不全ウィルスによる免疫の機能障害)

診療科の特徴

- 様々な合併症を持った高齢者の感染症・有熱疾患に対応しています。
- 院内感染症対策の担い手として、安全・安心な病院を目指します。
- 地域を含めた感染症対策の担い手を目指します。

主な対象疾患-

- 呼吸器感染症、尿路感染症、腸炎、肝・胆道系感染症、皮膚軟部組織感染症
- 髄膜炎、感染性心内膜炎、インフルエンザ、結核
- 原因のはっきりしない発熱(不明熱)
- 急性の発熱疾患とともに、基礎疾患、社会的背景も含めたバランスのとれた医療を心がけています。
- 患者・家族の希望に沿った個別的な医療を目指します。

得意とする分野-

- 一般細菌感染症の診断と治療
- 不明熱の診断と治療

精神科

スタッフ紹介



精神科部長

古田 光 (ふるた こう)

出身:東京医科歯科大学(H8卒) 専門:老年精神医学

專門:老年精神医字 資格:精神保健指定医

日本精神神経学会認定専門医・指導医

日本認知症学会認定専門医・指導医

老年精神医学会認定専門医

【常勤医】

松井 仁美 (まつい ひとみ) 大森 佑貴 (おおもり ゆうき) 堤 広佑 (つつみ こうすけ) 二井矢 峻 (にいや しゅん)

診療科の特徴

高齢者を対象とした老年精神科です。認知症を含む高齢者の精神障害の診断と治療を行っています。若年性認知症に対する多職種支援も行っています。入院患者に対しては年齢に関わらず総合病院の精神科としてコンサルテーションリエゾン精神医学を実践しています。

高齢者では、身体的な問題と精神的な問題とが密接に関わっていることが特徴です。当科では総合病院内 の精神科としての特色を生かし、必要に応じて他の診療科とも連携し、総合的に評価・治療を行っています。

- 病棟は30床の閉鎖病棟があります。気分障害、精神病性障害、認知症の精査加療、および合併症医療を中心に行っています。入院医療は急性期に特化しており、入院期間は1か月間が目安です。急性期の治療終了後の療養については精神保健福祉士をはじめ、多職種でサポートします。
- 難治性のうつ状態や精神病性障害に対して、全身麻酔下での電気けいれん療法(ECT)を施行しています。
- 外来は完全予約制です。受診希望の方は、予約センターへお電話のうえご予約をお取りください。認知 症に関するご相談は認知症専門相談室で受付けています。
- 他院精神科・心療内科等に通院中の方は診療情報提供書(紹介状)をお持ちください。また、現在の持病や飲み薬などが分かる資料を必ずご持参ください。可能であれば身体疾患のかかりつけ医療機関からの診療情報提供書をお持ちください。

主な対象疾患

- 老年期の精神疾患、特に老年期うつ病を中心とした気分障害や精神病性障害
- 認知症の行動・心理状態(BPSD)の精査・治療
- 認知症・もの忘れの精査、診断、治療介入、介護者支援、当事者支援(もの忘れ外来)

得意とする分野

- 認知症の行動・心理症状の精査加療
- 高齢者のうつ症状の原因検索と治療
- せん妄の診断と加療
- その他の高齢者の精神症状の原因検索と治療
- 高齢者の電気けいれん療法(2020年度実績:のべ281件施行)

緩和ケア内科

スタッフ紹介



緩和ケア内科部長

一齊藤 英一(さいとう えいいち)

出身:佐賀医科大学 (H1卒) 専門:緩和ケア内科 資格:日本緩和医療学会専門医 日本プライマリーケア学会認定医・指導医

【常勤医】

小西 治子(こにし はるこ)

緩和ケア外来/入院相談外来

緩和ケア外来では外来に定期的に通院していただきながら、痛みや呼吸困難などの苦痛を和らげたり、これからの過ごし方について相談したりしています。

緩和ケア外来の特長のひとつは、抗がん治療中の方もがん以外の方も受診できることです。痛みを和らげながら抗がん剤治療や放射線療法に臨みたい、抗がん剤の副作用を治療科のスタッフと相談しながら和らげ、抗がん剤治療のサポートをするのも緩和ケア外来の働きです。また、変化するご病状や体の状態に合わせて、これからの見通しや希望、過ごし方についても相談しています。

緩和ケア外来にはがん以外の方も受診できます。心不全や腎不全、慢性呼吸器疾患による呼吸困難、血管炎 や動脈狭窄、神経疾患による痛みや痺れなども、治療科のスタッフと相談しながら和らげていきたいと思って います。

外来での緩和ケアにも2つの形があります。ひとつは入院相談外来で、もうひとつは緩和ケア外来です。ど ちらも予約制です。予約は医療相談室で承っております。

緩和ケアチーム:一般病棟

一般病棟にご入院され治療をお受けになっている方の苦痛を、担当の医師や看護師さんたちと協力しながら和らげていくのが緩和ケアチームの働きです。緩和ケアチームは緩和ケアに専門的に携わっている医師や看護師、臨床心理士、精神科医、薬剤師、ソーシャルワーカーなどからなるチームで、ご入院されている病棟へチームでお伺いいたします。ご本人様やご家族様の希望や病棟からの依頼で訪床いたします。

緩和ケアチームはがんだけでなく、痛みだけでもなく、さまざまな病のさまざまな苦痛を和らげるチームです。糖尿病や動脈閉塞・血管炎による痛みや痺れ、慢性呼吸器疾患や心不全による呼吸困難、人工呼吸器や透析の導入また差し控えの意思決定、病で先行きが見通せないことによる気持ちのつらさなどにも、ご依頼を頂きベッドサイドにお伺いいたします。抗がん治療をする立場から少し離れ、苦痛をできるだけ和らげて過ごすという立ち位置から、これからをどう過ごすか一緒に考えて行くのも緩和ケアチームの働きです。

外来での緩和ケアにも2つの形があります。ひとつは入院相談外来で、もうひとつは緩和ケア外来です。ど ちらも予約制です。予約は医療相談室で承っております。

化学療法科

スタッフ紹介



化学療法科部長

| 宮本 鋼 (みやもと こう)

出身:聖マリアンナ医科大学 (H3卒) 専門:血液悪性腫瘍、特に悪性リンパ腫 多発性骨髄腫などのリンパ球系悪性腫瘍 資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本応学会血液専門医・指導医 がん治療認定医機構がん治療認定医 日本老年病医学会認定者生病専門医

【常勤医】

橘盛昭(たちばな もりあき)

診療科の特徴

- 化学療法科では、血液の悪性疾患のうち、**悪性リンパ腫**や**多発性骨髄腫**を中心として診療にあたっています。ともに高齢化社会を迎え、近年罹患者数が増加している疾患です。当院の性質上、当科では高齢者の患者様が多くなっていますが、受診される患者様に年齢制限は設けておらず若年者の患者様にも対応させていただきます。入院に当たってはクリーンルーム10床を準備して診療を行っています。現在は2名の血液専門医が所属し、入院中の患者様だけではなく、外来通院中の患者様についても毎週開催されるカンファレンスで治療方針を検討しています。
- **予約について**: 予約センターにて「**リンパ節腫大」や「多発性骨髄腫」が疑われる**と考えられるとお伝え 頂き、化学療法科受診を希望するとお話ください。**月曜から金曜日まで初診**をお受けしております。 なお、ご紹介状をお持ち頂けましたら幸甚です。

主な対象疾患

悪性リンパ腫、リンパ球増多症、多発性骨髄腫などのリンパ球系疾患、貧血、血小板減少など (リンパ節腫大、扁桃腫大など悪性リンパ腫が疑われる、あるいは診断されたもの。末梢血異常リンパ球の出現、骨病変を伴う貧血、高ガンマグロブリン(IgG,IgA,IgM,IgD)血症、モノクローナル蛋白の検出など)

なお、血液疾患かどうか迷う場合や緊急事態などは、ご遠慮なく、化学療法科の外来看護師、同医師までお 電話いただけましたら幸甚です。

得意とする分野・

●悪性リンパ腫:悪性リンパ腫は血液の成分でリンパ球(白血球の一種)という成分が腫瘍化した("がん"になった)疾患です。高齢者で罹患率は高くなり、近年増加傾向を呈し、10万人当たり20人程度発症するといわれています。

現在のWHO分類では70種類程に分類されており、その病型や発生部位によって治療が異なってきますが、治療の中心は化学療法となります。悪性リンパ腫に対しては新しい薬剤が数多く登場しています。B細胞リンパ腫に対してはリツキサン、ガザイバ、トレアキシン、ポライビー、T細胞リンパ腫に対してはポテリジオ、ムンデシン、ジフォルタ、イストダック、ホジキンリンパ腫に対してはアドセトリス、オプジーボ、キイトルーダといった薬剤が使用できるようになり、徐々に治療成績も改善してきています。

最近では、悪性リンパ腫に対する化学療法は外来での治療が中心となっています。そのような治療の場合では1回目の治療は副作用観察のため基本的に入院となりますが、以降は可能であれば外来での治療となります。自家末梢血幹細胞移植が必要な患者様には当科にて治療させていただき、同種移植が必要な患者様は血液内科と連携して治療を進めていきます。放射線治療が必要な患者様に対しては放射線治療科と連携して治療にあたります。

●多発性骨髄腫:多発性骨髄腫は血液の成分で形質細胞(白血球の一種)という成分が腫瘍化した疾患です。 多発性骨髄腫も近年の高齢化に伴い患者さんの数は増加傾向にあります。症状としては骨髄でがん細胞が増えた結果、病的骨折や骨痛が認められます。それ以外にも貧血、腎機能障害、高カルシウム血症や免疫力低下による感染症などが起こります。一般的には慢性の経過をたどりますが、まれに急激な進行を呈する場合もあり、症状については個人差が大きくなっています。

治療の中心はやはり化学療法となります。現在のところ根治療法といえるような標準治療は開発されていませんが、急速に治療成績が向上してきている疾患です。それには新規薬剤の登場によるところが大きいと考えられます。ここ数年で、プロテアソーム阻害剤といわれるベルケイド、カイプロリス、ニンラーロ、免疫調節薬のレブラミド、ポマリスト、抗体薬であるエンプリシティ、ダラザレックスといった薬剤が順次使用できるようになりました。今後も新規薬剤が保険承認されていく見込みであり、更なる治療成績の向上が期待されています。

多発性骨髄腫においても化学療法は外来での治療が中心となっています。1回目の治療は副作用観察のため基本的に入院となりますが、以降は可能であれば外来での治療となります。

現時点では、上記疾患を中心として年間に、のべ約300人の方々に外来治療を行っています。

スタッフ紹介



外科部長

伸郎 (かなざわ のぶお)

出身:筑波大学(H1卒)

専門: 消化器外科, 一般外科

資格:日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医

消化器病指導医・専門医

消化器内視鏡指導医・専門医 がん治療暫定教育医・認定医

大腸肛門病専門医



外科医長、救急診療部医長

出身:杏林大学(H8卒) 専門:消化器外科、一般外科



資格:日本外科学会専門医

《専門外来》(すべて予約センターで予約可能です)

【肝胆膵専門外来】金

【便潜血外来】月~木

【腹腔鏡手術外来】月、火

【ストーマ・スキンケア外来】原則として木曜日



外科部長

中里 徹矢 (なかざと てつや)

出身:杏林大学(H12卒)

専門:消化器外科、肝胆膵外科、胆膵疾患に対する内視鏡治療

外科教育

資格:日本外科学会専門医・指導医

日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・評議員

日本消化器内視鏡学会専門医 日本田道学会認定指導医

日本膵臓学会認定指導医

米国内視鏡外科学会(SAGES)FLS/FUSE認定



外科専門医長

五奉 (ほんだ かずな)

出身:杏林大学(H21卒) 消化器外科

資格:日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医

消化器がん外科治療認定医

日本消化器病学会専門医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 診療科の特徴

消化器領域の悪性疾患、良性疾患に対して、最新のエビデンスを重視しながらも患者さまのニーズに合わせた治 療法をご提案し手術治療を行っています。疾患の診断や治療法の選択にあたっては、消化器内科や麻酔科を始めと した各専門診療科と協力しながら、併存疾患の多い高齢者の状態を総合的に評価した上で治療方針を決定していま す。特に高齢者における外科治療では、癌の根治性だけではなく手術後も患者さまの生活の質(OOL)を維持する ことが重要と考えています。疾患の進行度や患者さまの全身状態に合わせてより低侵襲な腹腔鏡手術も積極的に 行っています。また、高齢者には管理が難しいと先入観をもたれやすい人工肛門に対しては、常駐する皮膚・排泄 ケア認定看護師がきめ細かなアドバイスや指導を行っています。高齢の患者さまが多い医療機関ではありますが、 診療に際しての年齢制限はありません。すべての年齢層の患者さまが受診していただけます。

- 消化器領域の悪性腫瘍、良性疾患を中心に主に外科手術治療を行っています。
- 疾患の進行状況や全身状態にあわせて、従来の手術法のほかに負担の少ない低侵襲な術式を積極的に行っていま す。(内視鏡治療、腹腔鏡手術など)
- 癌治療にあたっては、手術治療のみならず、術前後の化学療法、放射線治療などガイドラインに沿った集学的治 療を基本としています。
- 治療に際しては患者さまの希望や身体の状態を考慮した最適な治療法をご提案させていただきます。
- 良性疾患では、高齢者に多いヘルニア、直腸脱、肛門疾患など、不快感を取り除きQOLを高めることを目指して います。
- 内痔核に対する硬化療法(切らずに注射での治療)も行っています。
- 検査前の準備が大変な大腸内視鏡検査は短期入院による検査も可能です。

予約センターで予約できない場合や緊急対応をご希望の場合は当センターの医療連携室や外科外来まで直接ご連 絡ください。個別に早急に対応いたします。診療情報提供を持参するだけの直接受診は、患者様をお待たせするこ とにもなりかねません。宜しくお願い申し上げます。

主な対象疾患

- 悪性疾患:消化器系の悪性腫瘍(胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん、GIST)、 乳がん、ほか
- 良性疾患:胆石症、ヘルニア、直腸脱、内痔核など肛門部疾患、ほか
- 急性疾患:腸閉塞、急性胆嚢炎、急性虫垂炎、消化管出血(吐血・下血)、消化管穿孔、ほか

得意とする分野

肝胆膵外科が専門の中里外科部長が着任し、これまで当科で対応が難しかった肝門部胆管癌などの高難度手術症 例に対しても対応が可能となりました。また大学病院などの専門機関と連携し手術治療だけではなく血管内治療に も取り組んでいきます。

悪性疾患に対する治療では、各疾患の診療ガイドラインに沿った治療法を基本としています。しかし高齢者では 既に多くの併存疾患を抱えている場合が多く、治療を開始する時点での全身状態も非常に幅広いため、消化器内科 や循環器内科、麻酔科などの各専門診療科と病状を十分に検討した上で適切な治療法を選択しています。単に高齢 であることや認知症であると言う理由だけで消極的な治療法は選択せず、身体的社会的な背景やご家族のご希望も 考慮した治療法を検討します。癌の根治性に加えて生活の質(OOL)を維持することを目的とした患者さまの視点 に立った治療法を考えていきます。時には手術治療以外の選択肢を提示するなど、患者さまのニーズにあった柔軟 な医療を提供します。

手術治療では侵襲が加わることにより一時的に身体に負担がかかることは避けられません。低侵襲で負担の少な い治療法を積極的に取り入れ、術後は早期離床を進めるなど、病棟看護師や薬剤師をはじめとするコメディカルス タッフとともに術後もOOLを維持できるようチームで取り組んでいきます。悪性腫瘍に対する抗癌剤治療も手術治 療と同様に身体的に負担のかかる治療です。患者さまのおかれている状況を総合的に判断して適応を考えていきま

当センター外科では救急医療にも力を入れています。24時間/365日、2名の外科医によるon call 体制で救急対応 を行い、緊急手術などの急性期治療に対応しています。

血管外科

スタッフ紹介



心臟血管外科部長、血管外科部長、 呼吸器外科部長

河田 光弘 (かわた みつひろ)

出身: 浜松医科大学(H9卒)

専門:心臓血管外科一般、大動脈疾患、冠動脈バイパス、心臓弁膜症、 ステントグラフト治療、血管内治療

資格:外科認定医・専門医・指導医

心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医胸部ステントグラフト指導医(Gore TAG、Zenith TX2、Najuta) 腹部ステントグラフト実施医(Gore Excluder、Zenith、 VALIANT Captivia)

身体障害者福祉法第15条指定医 植込型補助人工心臓実施医 日本胸部外科学会評議員・関東甲信越地方会幹事 TAVR指導医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 着用型自動除細動器 (WCD) 処方資格取得



心臓血管外科医長

明敏(いぬい あきとし)

出身:東京大学(H19卒) 資格:日本外科学会 外科専門医

心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



血管外科専門部長

松倉 満(まつくら みつる)

出身:京都府立医科大学(H17卒) 専門:心臓・脳血管を除く血管疾患全般

特に下肢閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤

資格:日本外科学会 外科専門医 心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医

日本脈管学会 脈管専門医 腹部ステントグラフト指導医(Gore Excluder Endprosthesis) 腹部ステントグラフト指導医(ENDURANT ステントグラフト システム)

日本血管外科学会認定血管内治療医

下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による指導医



心臓血管外科医員

知洋 (むらた ともひろ)

出身:和歌山県立医科大学(H22卒)

資格:外科専門医

診療科の特徴

血管外科では、心臓、胸部大動脈、頭蓋内以外すべての血管疾患およびリンパ管疾患を対象としています。 手術治療、運動療法、薬物治療まで幅広く対応しています。

年齢による制限は特に設けておりません。ご高齢であっても適応があり、手術によってその患者さんの生活 の質が向上する、次の治療につながり、メリットが得られる場合は、ご本人、ご家族と十分に話し合った上で 積極的に治療いたします。

低侵襲手術(体に負担の少ない、傷の小さい、血管内治療)にも積極的に取り組んでいます。

傷の大きな従来の血管外科手術、低侵襲手術を患者さんの全身状態を考慮して、最も適切な方法で対応いた します。

主な対象疾患

- 腹部大動脈瘤
- 末梢動脈疾患(閉塞性動脈硬化症、末梢動脈瘤など)
- 虚血性足部難治性潰瘍/壊死(糖尿病性足疾患も含む)
- 腹部内臟動脈瘤、腹部内蔵動脈解離
- 下肢静脈瘤、静脈疾患
- 透析用内シャント造設・内シャント不全に対する血管拡張術・動脈表在化・透析長期留置カテーテル

得意とする分野-

- 腹部大動脈瘤のステントグラフト内挿術 開腹人工血管置換術に加えて、開腹しないカテーテル治療であるステントグラフト内挿術も行っておりま す。(図1)
- 末梢動脈疾患血管内治療

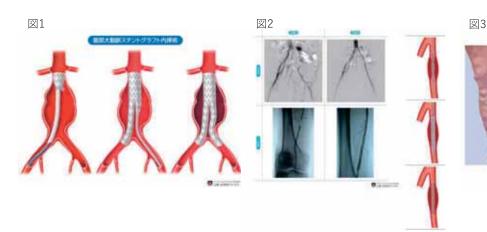
カテーテル治療で狭窄や閉塞している動脈を風船で拡張し、再度狭窄しない様にステントを留置したり、 再狭窄を防ぐ薬剤が溶け出すステントを留置したり、風船で薬剤を塗布してステントは留置しない方法や、 末梢動脈用ステントグラフトを留置したりを病変に合わせて治療します。

従来の血管外科手術に組み合わせて行う方法もあります。(図2)

● 静脈瘤血管内焼灼術

レーザー/ラジオ波血管内焼灼術は、従来はストリッピング手術という逆流を起こしている大腿部分の大 伏在静脈を抜去していたのに代わり、大腿部の大伏在静脈内膜面をレーザー/ラジオ波で焼灼して機能不全 となった静脈を閉塞させて逆流が起こらなくする方法です。(図3)

この治療の際には、TLA(大量局所浸潤)麻酔を用いて痛みを極力取るようにしております。







44

心臟血管外科

スタッフ紹介



センター長

俊鋭 (きょ しゅんえい)

出身:東京大学(S49卒)

専門:心臓血管外科一般、冠動脈バイパス、心臓弁膜症、補助人工心臓、

心臓移植

資格:心臓血管外科専門医・修練指導者

植込型補助人工心臓実施医

胸部外科指導医



心臓血管外科医長

明敏(いぬい あきとし)

出身:東京大学(H19卒) 資格:日本外科学会 外科専門医

心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医



心臓血管外科部長、血管外科部長、 呼吸器外科部長

河田 光弘 (かわた みつひろ)

出身: 浜松医科大学(H9卒)

専門:心臓血管外科一般、大動脈疾患、冠動脈バイパス、心臓弁膜症、 ステントグラフト治療、血管内治療

資格:外科認定医・専門医・指導医

心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医

下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医胸部ステントグラフト指導医(Gore TAG、Zenith TX2、Najuta)腹部ステントグラフト実施医(Gore Excluder、Zenith、 VALIANT Captivia) 身体障害者福祉法第15条指定医

植込型補助人工心臓実施医 日本胸部外科学会評議員・関東甲信越地方会幹事 TAVR指導医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 着用型自動除細動器 (WCD) 処方資格取得



心臟血管外科専門医長

眞野 暁子 (まの あきこ)

出身:京都府立医科大学(H8卒) 専門:循環器内科一般、心不全、補助人工心臓、心臓移植

資格:循環器専門医 ECFMG certificate



心臓血管外科医員

村田 知洋 (tiph ともひろ)

出身:和歌山県立医科大学(H22卒) 資格:外科専門医

主な対象疾患

● 冠動脈疾患:狭心症、不安定狭心症、急性心筋梗塞、オフポンプ冠動脈バイパス術

心臓弁膜症:大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、感染性心内膜炎、

大動脈弁置換術(SAVR, TAVI)、僧帽弁形成術、三尖弁輪形成術

● 不整脈疾患:心臓弁膜症に合併した心房細動、メイズ手術、肺静脈隔離術、左心耳切除

大動脈疾患:胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、急性大動脈解離(A型·B型)、慢性大動脈解離、開胸人工 血管置換術、ステントグラフト治療、オープンステントグラフト治療

● 重症心不全:補助循環(ECMO, IABPなど)、補助人工心臓(体外設置型・Impella補助循環用ポンプカ テーテルなど)

● 肺動脈疾患:肺塞栓症、肺高血圧、血栓除去、NO吸入療法

● 成人先天性心疾患:心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、成人先天性心疾患に伴う心不全

得意とする分野

ステントグラフト治療 胸部大動脈瘤をカテーテルによる血管内治療で手術します。



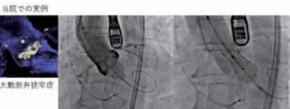
● 補助人工心臓 体外設置型やImpella補助循環用ポンプカテーテルなどで弱った心臓を補助します。



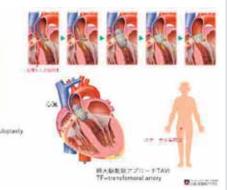


体外設置型ニブロ補助人工心臓

● 経カテーテル的大動脈弁治療 TAVI = Transcatheter Aortic Implantation







The world's smallest heart pump

診療科の特徴

心臓血管外科の診療スタッフは常勤心臓血管外科医3名、重症心不全担当医1名、非常勤医5名で、成人心臓血管疾 患に対する手術治療を行っています。ハートチームとしては、心臓血管外科、循環器内科、麻酔科、リハビリ科、 看護師、放射線技師、臨床工学技士、検査技師、輸血部、栄養科と各専門分野の力を合わせて重症大動脈弁狭窄症 に対してTAVI(経カテーテル的大動脈弁治療)を行っております。

当院の特徴として、高齢者の心臓手術、大血管手術も積極的に行っております。どのようにしたら、手術を安全 に乗り越えられ、歩いてご自宅に退院できるかを常に考えて、術前から呼吸練習、身体的リハビリ、栄養指導、可 能な限り自己血貯血を行っています。術中は最も安全で効果的な術式を選択し、自己血を使用することで他家血輸 血を使用せず無輸血を目指し、術後は早期離床を心がけて、積極的リハビリを行い、ハートチームでカンファレン スしながら退院を目指してゆきます。急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性 A 型大動 脈解離の緊急症例にも対応できる質の高い医療の提供に努めています。当院は東京都 CCU ネットワーク、急性大動 脈スーパーネットワークに加盟して、救急患者さんも受け入れております。

脳神経外科/脳血管内治療科

スタッフ紹介



脳神経外科部長 脳血管内治療担当部長

上野 俊昭 (jān blas)

出身:東京大学(H1卒) 専門:脳血管内治療

資格:日本脳神経外科専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医



脳神経外科医長

高梨 成彦 (tabal Lift)(2)

出身:帝京大学(H14卒) 専門:脳神経外科・脳血管内治療 資格:日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医

【常勤医】

吉田 拓也 (よしだ たくや)

診療科の特徴

東京都急性期脳卒中搬送体制に参画し、くも膜下出血・脳出血の救命手術、急性期脳梗塞の血栓溶解療法や血管内治療(血栓除去)を24時間体制で実施します。

- 脳梗塞の急性期治療(発症4.5時間以内の血栓溶解療法、血管内治療、減圧開頭術)を脳神経内科・脳卒中科と協力して行っています。
- 脳動脈瘤、頚動脈狭窄症その他の脳血管障害に対する低侵襲の血管内治療全般に力を入れています。
- 東京都区西北部(二次医療圏)脳卒中医療連携に急性期医療機関として参加し、回復期や維持期の医療機関との切れ目のない連携に努力しています。
- 認知症とまぎらわしい症状を呈することのある疾患として、特発性正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫などが 疑われるときも、気軽にご相談ください。
- 当脳神経外科は、日本脳神経外科学会が行う入院症例登録事業 JND(Japan Neurosurgical Database)に参加しており、脳神経外科で施行した入院治療(手術のみならず、内科的治療や放射線治療、リハビリテーションなどのすべてを対象としますが、患者を特定する個人情報を含みません。)とその転帰について、登録を希望しないと申出があった方を除外して、学会に報告します。

主な対象疾患

- 急性期脳卒中(くも膜下出血・脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞)
- 頚動脈狭窄症
- 脳・脊髄動静脈奇形
- 脳・脊髄硬膜動静脈瘻
- 良性脳腫瘍(髄膜腫・神経鞘腫・下垂体腺腫・聴神経鞘腫など)
- 悪性脳腫瘍 (グリオーマ・悪性リンパ腫・転移性脳腫瘍など)
- 脊髄腫蕩
- 頭部外傷・慢性硬膜下血腫
- 症候性てんかん・けいれん発作
- 水頭症(特に、特発性正常圧水頭症)
- 三叉神経痛・顔面けいれん
- 脳神経外科疾患のセカンドオピニオン
- その他、小児を除く脳神経外科一般

得意とする分野・

2020年度に中央手術室、血管撮影室で行われた手術

脳腫瘍・脊髄腫瘍	5件	慢性硬膜下血腫	42件
脳動脈瘤・脳動静脈奇形(開頭術)	0件	外傷性疾患(血腫除去)	4件
脳出血・脳梗塞(開頭術)	3件	シャント・ドレナージ	15件
頸動脈狭窄(頸動脈内膜剥離術)	0件	脳血管バイパス術	0件
脳動脈瘤・血管奇形等(血管内手術)	20件	その他	5件
頸動脈狭窄(血管内治療)	13件	計	135件
その他の血管内治療(急性期再開通)	28件		

呼吸器外科

スタッフ紹介



心臟血管外科部長、血管外科部長、呼吸器外科部長

|河田 光弘 (かわた みつひろ)

出身:浜松医科大学(H9卒)

専門:心臓血管外科一般、大動脈疾患、冠動脈バイパス、心臓弁膜症、

ステントグラフト治療、血管内治療 資格:外科認定医・専門医・指導医

伯・外科認定医・専门医・指導医 心臓血管外科専門医・修練指導者、循環器専門医 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医 胸部ステントグラフト指導医(Gore TAG、Zenith TX2、Najuta) 腹部ステントグラフト実施医(Gore Excluder、Zenith、

身体障害者福祉法第15条指定医 植込型補助人工心臓実施医 日本胸部外科学会評議員・関東甲信越地方会幹事 TAVR指導医 浅大腿動脈ステントグラフト実施医 着用型自動除細動器(WCD)処方資格取得

【常勤医】

吉岡 孝房 (よしおか たかふさ) 登 祐哉 (のぼり ゆうや)

VALIANT Captivia)

診療科の特徴・

呼吸器外科は、常勤の呼吸器外科医2名と非常勤医師が診断・治療にあたっております。担当する疾患は 「胸部疾患」、特に肺(原発性肺癌、転移性肺腫瘍)・縦隔・胸膜・胸壁の疾患であり、良性や悪性の腫瘍、 気胸や膿胸などの診察・診断・治療(おもに手術治療)を積極的に行っています。

肺がん(無症状)の発見動機で最も多いのは「併存疾患の診療中に偶然発見された」です。胸部レントゲンやCTで異常陰影のある症例はもちろんのこと、異常と診断するのが難しく判断に困る症例も「検診枠(月・水・金)」で積極的に受け入れています。

毎週呼吸器カンファレンスを行い呼吸器内科・放射線治療部・病理診断科と検討の上で、最も適切な治療法 を選択するようにしております。

【外来診察日】

	月	火	水	木	金
午前					
午後	呼吸器外科 肺がん検診枠	中島	呼吸器外科 肺がん検診枠		呼吸器外科 肺がん検診枠

※ 初診予約は比較的取りやすくなっております。外来日には初診・再診ともに行っております。

主な対象疾患

各診療科と連携して低侵襲かつ積極的に外科的治療(診断・治療)を行っています。

■ 悪性腫瘍:原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍など

● 良性疾患:胸水貯留、自然気胸、膿胸(慢性・急性)、感染性疾患(非定型抗酸菌症・アスペルギル ス)、原因不明なリンパ節腫大、胸膜肥厚など

● 胸部外傷:転倒などによる外傷性血胸もしくは外傷性気胸

得意とする分野

手術日:毎週火・金曜日

高齢の患者さんが多いことから、なるべく体の負担が少ない胸腔鏡手術(低侵襲手術)を積極的に行っています(写真1)。胸腔鏡手術では、3~4か所、それぞれ1cm程度のポート孔を作成し、内視鏡や鉗子などを用いて肺切除を行います。昨年は約8割の患者さんに胸腔鏡手術を行いました。肺癌(肺葉切除およびリンパ節郭清:根治術)や縦隔腫瘍、胸膜・リンパ節生検、膿胸の掻把なども本手術の適応となります。

進行肺癌症例や、補助循環(ECMOなど)必要とする症例に対しても、心臓血管外科・ME部・麻酔科と協力して、安全かつ根治性の高い手術を行っています。

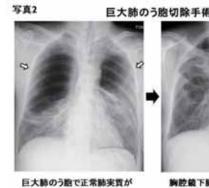
巨大肺のう胞・肺気腫症例に対して、のう胞部分を切除して肺機能の回復を目指す手術も行っています(写真2)。

これからも地域の先生方と共に「やさしい医療」を実践して参りたいと考えております。今後とも、 当センター呼吸器外科をよろしくお願い申し上げます。

写真1



胸腔鏡手術の様子 (テレビモニターを見ながら行う)



圧迫されている

胸腔鏡下肺のう胞切除(両側)を 安全に行い、正常肺部分の拡張が 得られた

整形・脊椎外科

スタッフ紹介(整形外科)



副院長(外科総括部長兼務)

時村 文秋 (ときむら ふみあき)

出身:東京大学(S61卒)

専門:整形外科一般、手外科、特に末梢神経外科資格:日本整形外科学会専門医

日本手外科学会専門医、 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

日本骨粗鬆症学会認定医



整形・脊椎外科専門部長

早川 謙太郎 (はやかわ けんたろう)

出身:東京大学 (H14卒) 専門:脊椎外科全般

資格:日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医・指導医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医



整形・脊椎外科部長

宮﨑 剛 (みやざき つよし)

出身:東京大学(H5卒) 専門:整形外科一般、関節外科

資格:日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会認定専門医・評議員

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

日本骨粗鬆症学会認定医、医学博士 Yale大学医学部留学(2000~2002)

東京大学医学部整形外科非常勤講師



整形・脊椎外科医長

濱路 博 (はまじ ひろし)

出身:東京大学(H7卒)

専門:関節外科 資格:日本整形外科学会認定整形外科専門医

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医日本骨粗鬆症学会認定医

【常勤医】

金子 雅子 (かねこ まさこ) 金子 泰三 (かねこ たいぞう) 中村 伸哉 (なかむら しんや)

永井 雄高 (ながい ゆうこう) 中山 雄太 (なかやま ゆうた)

診療科の特徴

加齢に伴う関節疾患、外傷、脊椎疾患、絞扼性神経障害などを主に扱っています。

人工膝関節置換術、人工股関節置換術、頸椎椎弓形成術、腰椎椎弓切除術、インストゥルメント使用脊椎固 定術、手根管開放術、大腿骨頸部骨折に対する骨接合術、人工骨頭置換術などを行っています。

月・火・木・金の初診外来とは別に、毎週火曜、木曜、金曜午後に人工関節初診外来を開いています。 末梢神経疾患を中心とした手外科疾患に対しては、火曜午後に時村の初診外来があります。

火曜・金曜午後には脊椎外科の初診外来を開いています。

主な対象疾患

関節疾患:変形性膝関節症、変形性股関節症

脊椎疾患:腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、脊椎圧迫骨折後偽関節

外傷:大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折、橈骨遠位端骨折、膝蓋骨骨折、肘頭骨折、上腕骨顆上骨折

手外科疾患:絞扼性神経障害(手根管症候群、肘部管症候群)、デュプイトレン拘縮

得意とする分野-

以下、令和2年度における手術件数

● 人工膝関節全置換術:79件

● 人工股関節全置換術:45件

● 大腿骨頚部骨折に対する人工骨頭置換術:36件

大腿骨近位部骨折に対する骨接合術:52件

頚椎手術:34件

胸椎手術:9件

腰椎手術:74件

● 経皮的椎体形成術:15件

● 手根管開放術:23件

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長

種井 良二 (たねい りょうじ)

出身:北里大学(S62卒) 専門:老年皮膚学

アレルギー性皮膚疾患(高齢者のアトピー性皮膚炎など)

資格:皮膚科専門医

【常勤医】

宮澤 理恵子 (みやざわ りえこ) ※休職中

診療科の特徴

当センター皮膚科は、関連する診療科との連携により皮膚疾患の向こう側にある老年疾患・全身疾患に対する診断・治療も高いレベルで行えるため、高齢者の皮膚病診療に最も大切な「皮膚と全身をトータルに診る医療」を実践することが出来ています。

また、当センターは病理部門が充実しているため、蛍光抗体法を始め、皮膚科診断に重要な特殊染色などが迅速に施行可能です。さらには高齢者の皮膚疾患に対応した看護体制も充実しており、福祉との連携もスムーズです。

- 高齢者の皮膚疾患全般について対応します。
- 高齢者のQOL (Quality Of Life:生活の質)を考慮した皮膚病の診療と治療を実施しています。
- 一般皮膚科、老年皮膚科、皮膚外科などの診療を幅広く行っています。
- スキントラブルやアンチエイジングなどのスキンケア指導も行います。
- 健康長寿を目的として高齢者以外のすべての年齢層の皮膚疾患についても診療いたします。

主な対象疾患

- 一般的皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、虫刺され、熱傷、水虫、胼胝、爪疾患)の診療。
- かゆみ疾患(皮脂欠乏性湿疹、皮膚掻痒症、アトピー性皮膚炎、紅皮症、痒疹、疥癬等)の精査や治療。
- 蕁麻疹やアレルギー、薬疹・中毒疹の原因検索と加療。
- イボやシミなどの老年性皮膚変化や良性・悪性皮膚腫瘍の診断と治療。
- 内臓疾患と関係する皮膚疾患(デルマドロームなど)の精査と加療。
- 口腔・外陰部粘膜疾患の診断と治療。
- 膠原病関連疾患(皮膚筋炎、強皮症、血管炎など)の皮膚症状の診断と治療。
- 高齢者に生じる脱毛症の診断・治療、生活指導。
- 重症の皮膚感染症(帯状疱疹や丹毒・蜂窩織炎など)の入院点滴治療。
- 水泡性類天疱瘡(全身に水泡ができる自己免疫疾患)の入院治療。
- 下肢などに発生する皮膚潰瘍や血行障害性皮膚変化の精査と入院治療。
- かかりつけ医が対応に難渋する、褥瘡のデブリドマンや入院管理の要請への対応。
- 乾癬やアトピー性皮膚炎の生物学的製剤治療も承認病院として実施可能です。
- 手術適応症例では各種の手術を行っています。癌前駆症や皮膚癌の症例も非常に多く、経験豊富なので、症例に応じたQOLを考慮した治療方針の決定が可能です。(例えば抗癌剤や免疫賦活薬あるいは放射線治療法などの"切らない治療法"の選択、より高度な専門病院への紹介など)

得意とする分野

高齢者の痒み疾患

- 当院の臨床実績・臨床研究の成果をまとめて、種井部長は本邦初のアトピー性皮膚炎の英文教本「Evolution of atopic dermatitis in the 21st century.」(2017年)において"Clinical manefestations;Senile atopic dermatitis"のパートを分担執筆しました。
- その他の痒み疾患についても当院の症例での診療実績を解析して多くの総説を報告しています。

泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長

粕谷 豊 (かすや ゆたか)

出身: 愛媛大学 (H2卒) 専門: 尿路悪性腫瘍、尿路結石症、尿路感染症 資格: 日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本がん治療認定医機構暫定教育医



泌尿器科専門医長

永田 卓士 (ながた たかし)

出身:熊本大学(H15卒) 専門:排尿機能 資格:日本泌尿器科学会専門医・指導医

診療科の特徴

泌尿器科では特に高齢者の泌尿器に関する問題全般に対応いたします。

最近は副作用の少ない、より効果の高い排尿改善薬物を積極的に取り入れ、保存的治療に重点を置いた治療をしていますが、手術適応患者に対しては、機能温存を念頭に置いて極力負担の少ない内視鏡手術で対応し、高齢者のQOLを損なわないようにしています。

- 当センター泌尿器科の診療スタッフは4名で診療を行っています。
- 尿力学検査装置、超音波検査装置を併用して総合的に排尿機能検査を行い、詳細な分析のもとに診断・ 治療を行い、いわゆるエビデンスに基づいた医療に貢献しています。
- 排尿に関して色々な悩みがあっても病院にかかりにくい人たちのために気軽に排尿の悩みを相談できるように「さわやか排尿外来」を開設しています。
- 尿路結石の治療は、高性能の尿管鏡・膀胱鏡下でレーザー、リソクラストなどのデバイスを使い確実に 砕石することを目標にしています。
- 膀胱癌の治療では光力学診断(Photodynamic diagnosis: PDD)による経尿道的膀胱腫瘍切除術を行っており、確実に腫瘍切除することを目標にしています。
- 前立腺癌の診断のために前立腺生検を行っていますが、超音波の画像とMRI画像を同時に連動させることのできるデジタル超音波診断装置「HIVISION Ascendus」を導入しており、前立腺癌の確実な診断を目標にしています。

主な対象疾患

- 高齢者の排尿障害:尿失禁、神経因性膀胱、前立腺肥大症、間質性膀胱炎など
- 尿路悪性腫瘍:腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌など
- 尿路結石症:内視鏡によるレーザー砕石術
- 尿路感染症:色々な原因に伴う複雑性尿路感染
- 尿路管理:尿道留置カテーテル、膀胱留置カテーテル、腎盂留置カテーテル、尿管ステントの留置及び 交換

得意とする分野

【さわやか排尿外来】

頻尿、失禁、パッドやおむつの相談などを承ります。

泌尿器科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師が皆さまの排尿問題解決をお手伝いします。

日時:毎週火曜日 午後13時より

場所:1階13番ブロック泌尿器科診察室

予約:予約制のため、予約センターにてご予約をお取りください。

スタッフ紹介



眼科部長

沼賀 二郎 (ぬまが じろう)

出身:帝京大学(S59卒) 専門:眼科一般、ぶどう膜炎、眼炎症、免疫遺伝学 資格:日本眼科学会眼科専門医 視覚障害指定医師



眼科専門医長

寺田 裕紀子 (Tibit lipital)

出身:東京医科歯科大学(H18卒)

資格:日本眼科学会眼科専門医 身体障害者福祉法指定医 難病指定医

眼科光線力学療法 (PDT)認定医 視覚障害者用補装具適合判定医師 水晶体嚢拡張リング(CTR)講習会受講医師



眼科医長

池上 靖子 (いけがみ やすこ)

出身:奈良県立医科大学(S61卒) 専門:眼科一般、糖尿病網膜症、黄斑症 資格:日本眼科学会眼科専門医 眼科光線力学療法(PDT)認定医 身体障害者福祉法指定医 身体障害者用補装具適合判定医 難病指定医



眼科専門医長

裕樹 (やまもと ひろき) 山本

出身:三重大学(H19卒)

専門:白内障(多焦点、縫着、強膜内固定含む)、網膜硝子体疾患 資格:日本眼科学会眼科専門医

身体障害者福祉法指定医 難病指定医 視覚障害者用補装具適合判定医 水晶体嚢拡張リング(CTR)講習会受講医師

【常勤医】

高尾 博子 (たかお ひろこ) 福田 祥子 (ふくだ しょうこ)

診療科の特徴

- 白内障手術は個々の取り巻く環境に応じて日帰り手術、1泊2日程度の入院手術を施行していきます。使用 する眼内レンズは乱視矯正用、多焦点(選定療養)などの最先端のものです。90歳以上の超高齢者、アルツ ハイマー病などの認知症を有する患者さま、様々な全身疾患を合併する方にもQOL(Quality of life)、QOV (Quality of vision)を考え積極的に手術を施行しています。その術式はほぼ全例が小切開超音波乳化吸引術 で、乱視が少なく、早い社会復帰が可能なものです。また難症例にも対応でき、強膜内眼内レンズ固定術も 行っています。
- 網膜剥離、黄斑円孔、硝子体出血、網膜前膜には積極的に小切開硝子体手術(23G及び25G)を行ってお り、緊急手術にも対応しています。
- 様々な病型の緑内障を最新の病因論に基づき的確に診断し、個別的にきめ細やかな治療を行っています。 また緑内障手術は積極的に低侵襲緑内障手術(MIGS)を行い、また線維柱帯切除術やチューブシャント 手術も行っています。
- 加齢黄斑変性症の診断、薬物治療を専門的に行っています。高齢者では眼底疾患が増えますが、蛍光眼底 造影検査(FA及びIA)や光干渉断層計(OCT、OCT-A)検査を随時行い、レーザー治療、ステロイド薬テノ ン嚢下注射、抗VEGF抗体硝子体注射などを行っています。
- ぶどう膜炎はその診断に苦慮することが多いですが、眼内液よりDNA診断を行い、高齢者のぶどう膜炎の 診断、治療で好成績を上げています。また治療に用いるステロイド薬の全身副作用、特に高齢者で重要な骨 粗鬆症にも考慮した治療を施行しています。
- 高齢者全ての疾患で病診連携に力を入れています。

主な対象疾患

- 白内障
- 眼底疾患(加齢黄斑変性症、網膜剥離、黄斑円孔、硝子体出血、網膜前膜、糖尿病網膜症、網膜血管閉塞 症など)
- 眼瞼下垂や眼瞼内反などの外眼部疾患
- 緑内障やぶどう膜炎

得意とする分野

2020年度中央手術室施行

手術内訳	件数
● 白内障関連疾患	1,332件
● 硝子体関連	87件
● 緑内障関連	39件
● 外眼部関連	63件
● 硝子体注射	397件

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科医長

高橋 正時 (tablable stable)

出身:山梨医科大学(H15卒) 専門:耳島咽喉科

等ID: 异异咽喉 資格: 医学博士

日本耳鼻咽喉科学会専門医

日本耳鼻咽喉科学会専門研修指導医

東京医科歯科大学臨床准教授

補聴器相談医

難病指定医 補聴器適合判定医

【常勤医】

森 友里絵(もり ゆりえ) 小山 雄太郎(こやま ゆうたろう)

診療科の特徴

耳鼻咽喉科では耳・鼻・口腔・咽喉頭・頸部領域の疾患の診療を行っています。本領域は、比較的若年層を中心とした疾患が多い一方、嚥下障害や老人性難聴、悪性腫瘍などの高齢者に多く認められる疾患もあります。しかし、高齢者の場合は、様々な身体合併症により治療方針の決定に難渋することが少なくありません。当科は、日本でも数少ない高齢者専門の耳鼻咽喉科としての豊富な経験を元に、「高齢だから」という理由でひとくくりにせず、患者様お一人お一人と全人的に向き合い、高齢者のQOL(生活の質)向上を目的とした診療に努めております。

主な対象疾患

- 耳:老人性難聴・慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎・突発性難聴・顔面神経麻痺
- 鼻:慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎
- のど:声帯ポリープ・ポリープ様声帯・反回神経麻痺・嚥下障害
- 頭頸部腫瘍:甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍

得意とする分野

- 慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎に対する外科的治療を積極的に行っています。高齢者の方でも外科治療により、聴力改善や耳漏の停止、鼻づまりや鼻汁・後鼻漏といった症状の改善が可能で、QOLを向上することが出来ます。
- リハビリテーション科、神経内科・脳卒中科、歯科口腔外科、言語療法士等とのチームアプローチにより総合的な嚥下障害診療を行い、経口摂取の維持に努めています。適応のある患者様に対しては嚥下改善手術や誤嚥防止手術などの外科治療にも積極的に取り組んでおります。
- 毎週月・水・木・金の午後に補聴器外来を開設し、補聴器適合判定医と補聴器相談医が適切な補聴器装用の指導を行っています。
- 頭頸部悪性腫瘍に対しては、狭帯域光観察(NBI(Narrow Band Imaging))が可能な耳鼻咽喉ビデオスコープを導入し、頭頸部領域の早期癌病変の検出に成果を挙げています。

歯科口腔外科

スタッフ紹介



歯科口腔外科部長

平野 浩彦 (ひらの ひろひこ)

出身:日本大学松戸歯学部(H2卒)

専門:高齢者歯科

資格:日本老年歯科医学会認定医・指導医・専門医

摂食機能療法専門歯科医師 歯科医師臨床研修指導医 東京歯科大学非常勤講師 昭和大学歯学部非常勤講師

日本大学松戸歯学部非常勤講師



歯科口腔外科医長

齊藤 美香 (さいとう みか)

出身:日本大学松戸歯学部(H7卒)

専門: 老年歯科 資格: 日本老年歯科医学会専門医・指導医 日本顎咬合学会かみあわせ認定医 歯科医師臨床研修指導医

【常勤医】

森 美由紀(もり みゆき)

診療科の特徴

歯科口腔外科では、様々な併存疾患をお持ちで、服用薬剤の影響、疾患による身体機能低下などにより、歯科治療などが困難な高齢者の方々への対応を広く行っております。対象は、在宅療養者、介護保険施設入所者などの方への対応もさせて頂いております。治療の際は、必要に応じて他科医師等と連携し包括的な評価を実施し、安心安全な医療管理の下に歯科診療を行っております。

また、認知症高齢者の方への対応も行っております。以上の要介護者高齢者患者の方への口腔衛生管理・指導・助言などを、歯科衛生士が中心となり実施しております。

オーラルフレイル、口腔機能低下、摂食嚥下障害に対する評価および管理指導なども、専用の機器を整備し実施しております。

診療スタッフは常勤医3名、非常勤医2名、研修医2名です。スタッフは日本老年歯科医学会専門医・指導医(3名)・摂食機能療法専門歯科医師(2名)、日本口腔外科学会指導医(1名)・専門医(1名)、日本補綴歯科学会認定医(1名)であり、質の高い医療の提供に努めております。

また、当院は日本老年歯科医学会認定施設であり、高齢者の診療を通じて、研修医育成、大学の選択実習受け入れなどを積極的に行っています。

主な対象疾患

- ハイリスク患者への歯科治療:抗血栓療法(ワーファリン、プラザキサカプセル、イグザレルト、バイアスピリン、プラビックスなど)を受けている方の歯科治療を同療法維持下に行います。血液疾患(白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血)などのため、出血しやすい、あるいは止血しにくい、そして口腔粘膜が脆く、弱くなっている方には、状況に合わせ適宜治療を行います。心臓弁に対する手術既往例などの歯科治療では、主治医と連携し治療を行います。骨吸収抑制薬(ビスフォスフォネート製剤など)服用例では、処方医と連携しつつ抜歯、また骨吸収抑制薬関連顎骨壊死例の治療を行っています。
- 認知症高齢者の方々への歯科治療、口腔衛生管理を行います。
- オーラルフレイル、口腔機能低下(滑舌定価、咀嚼機能低下、咬合力低下など)、摂食嚥下障害の症状 をお持ちの方に対し、評価および管理指導などを専用の機器を整備し実施します。
- 習慣性、あるいは陳旧性顎関節脱臼(顎がはずれる)例の整復固定を行います。
- 顎関節症あるいは関節リウマチ例の顎関節における症状に対し、咬み合わせの改善、筋痛の治療を行います。
- 舌痛、白板症など口腔粘膜疾患の診断と治療を行います。
- 顎顔面口腔の腫瘍(細菌感染から化膿して膿がたまる疾病)の治療を行います。
- 顎顔面口腔の外傷(転倒転落など)の治療を行います。
- 地域歯科医師会、医師会との医療連携を行います。歯科医師会からのご紹介の場合、当センターで必要な検査や治療を行い、ご紹介目的が達成された後、患者さんは歯科医師会のかかりつけ医に戻ります。

得意とする分野

高齢者の方々の口腔環境はここ20年で大きく変化し、歯科医療の需要も変化を遂げました。つまり、う蝕、歯周疾患などの口腔疾患治療また義歯作製だけでなく、口腔機能(摂食嚥下機能など)の維持回復への支援を担うことを求められつつあります。こういったニーズに応えるために、口腔機能支援センター(Tokyo Metropolitan Geriatric Oral Health Center: GOC)を設立しました。GOCは、当センターがこれまで培ってきた、地域在住高齢者、フレイル高齢者さらに要介護高齢者(在宅療養高齢者、認知症含む)への口腔疾患のみならず、口腔機能を維持回復するためのノウハウを効率的に地域で推進するための機関として、病院部門歯科口腔外科と研究所部門口腔および栄養関連研究グループとが連携して運営しており、その事業の一つとして専門職を対象とした研修会(摂食嚥下機能、栄養、認知症関連)を年間5回程度行っており、その開催情報は当センターのツイッター(https://twitter.com/tmghig)でお知らせしております。

64

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔科部長

小松 郷子 (こまつ きょうこ)

資格:日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定指導医 日本麻酔科学会代議員 社会医学系指導医・専門医 日本老年麻酔学会評議員 日本救急医学会認定ICLS/WSディレクター AHA-BLS/ACLSインストラクター インフェクションコントロールドクター 医療安全管理者 臨床研修指導医/麻酔科標榜医/緩和ケア研修会修了/DMAT隊員 (厚生労働省) 医学博士(東京大学)



麻酔科医長

東京消防庁救急相談医

縄田 瑞木 (なわた みずき)

出身:群馬大学 資格:日本麻酔科学会認定専門医・認定医 日本老年麻酔学会認定医 麻酔科標榜医/緩和ケア研修会修了(厚生労働省) JRACE合格



麻酔科専門部長

内田 博(うちだ ひろし)

出身:島根医科大学 資格:麻酔科専門医(日本麻酔科学会、日本専門医機構) 日本麻酔科学会認定指導医 麻酔科標榜医(厚生労働省) ペインクリニック専門医(日本ペインクリニック学会) 臨床修練指導医(厚生労働省) 臨床研修指導医 医学博士



麻酔科専門医長

久保田 涼 (くぼた りょう)

出身:日本医科大学 資格:日本麻酔科学会認定専門医・認定医 日本老年麻酔学会認定医 臨床研修指導医/麻酔科標榜医(厚生労働省)

【常勤医】

廣瀬 佳代 (ひろせ かよ)

資格:日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定指導医、麻酔科標榜医(厚生労働省)、医学博士

大和田 啓暉 (おおわだ ひろあき)

資格:日本麻酔科学会認定医、麻酔科標榜医(厚生労働省)

秋澤 千尋 (あきざわ ちひろ)

診療科の特徴

当センターの麻酔科では、主として手術のための周術期全身管理を行っています。常勤・非常勤医合わせて 14名のスタッフがおり、このうち専門医以上が10名、標榜医が2名と質の高い麻酔診療を提供しています。

高齢者は体力が低下しているだけでなく、数多くの病気を抱えていることが多いため、手術の際にはより多くの知識や高い技術が必要になります。当麻酔科では術前からていねいな検査を実施し、身体所見だけでなく、生活環境やご家族とのかかわりも含め、患者さんひとりひとりに最善の麻酔方法を考えます。そして十分な説明を行ったうえで、高齢者の手術麻酔に習熟したスタッフが、エコー・脳波解析モニター・心機能モニターなどを含めた最新の設備や機器を用いて診療を行っています。

主な対象疾患

外科・心臓血管外科・脳神経外科・呼吸器外科・整形脊椎外科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・精神科のECT・細胞療法科の骨髄移植を含むすべての診療科の手術麻酔に対応しています。また、緩和ケア内科入院中の患者さんの疼痛管理にも対応しています。

得意とする分野-

- 90歳以上の超高齢患者さんの手術麻酔
- 高度認知症患者さんの手術麻酔
- 糖尿病や透析などの合併症をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- 心臓や呼吸器疾患をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- その他、特殊な病気をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔
- ほかの病院では手術が難しいと言われた病気をお持ちの高齢患者さんの手術麻酔

リハビリテーション科

スタッフ紹介



リハビリテーション科部長

金丸 晶子 (かねまる あきこ)

出身:京都大学(S61卒)

専門:内科一般

資格:日本リハビリテーション医学会認定臨床医 リハビリテーション科専門医

日本リハビリテーション医学会指導責任者 日本認知症学会認定専門医

義肢・装具等判定医



リハビリテーション科専門部長 救急診療部専門部長

加藤 貴行(かとう たかゆき)

出身:旭川医科大学(H2卒)

専門:神経内科学

資格:日本リハビリテーション医学会認定臨床医

リハビリテーション科専門医 日本神経学会神経内科専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

日本認知症学会認定専門医

【常勤医】

正田 奈緒子 (しょうだ なおこ) 齊藤 陽子 (さいとう ようこ)

診療科の特徴

当科では主に入院患者を中心とした急性期リハビリテーションを行っています。高齢者では入院前より複数 の疾患を合併し、要介護状態であることも珍しくありません。合併症や社会的背景なども含めた総合的な評価 を行い、急性期の病状変化に合わせた、より適切なリハビリテーション介入を心がけています。

病院3階のリハビリテーション室は、窓が大きく明るいオープンスペースで、屋上庭園には屋外訓練用歩行 路も併設されています。言語聴覚療法・臨床心理療法用の専用個室、ADL練習室、義肢装具室等も完備されて います。

また、通常の理学療法・作業療法・言語聴覚療法に加え、臨床心理療法を積極的に取り入れ、高次脳機能に ついてもアプローチしています。

主な対象疾患-

- 脳血管障害
- 運動器疾患
- 神経変性疾患
- 心疾患・動脈硬化性疾患
- 呼吸器疾患
- 廃用症候群(外科術後・肺炎・消化器疾患・膠原病など)
- 悪性腫瘍
- 高次脳機能障害(頭部外傷、アルツハイマー型認知症、その他の認知症など)
- 上下肢痙縮、体幹痙縮、痙性斜頚(脳血管障害後遺症、成人脳性麻痺など)

得意とする分野

【入院リハビリテーション】

全科の入院症例を対象に様々な疾患に対してリハビリテーションを実施しています。

- 廃用防止ラウンド:リハ医・PT・OT・病棟看護師・栄養士・歯科医・歯科衛生士等で病棟回診し、 ADL低下が予想される症例をピックアップし、積極的にリハビリ介入したり、病棟での離床指導をしたり
- NST参画:Nutrition Support Teamの中心的メンバーとしてリハ医・STが回診します。
- 地域包括ケア病棟:通常のリハビリテーションに加え、専従PTと看護師が協働する病棟リハを実施して
- SCU:Stroke Care Unit専従PTを中心に発症早期からリハビリを開始し、在宅や回復期へつながるリハ ビリを提供します。

【外来リハビリテーション】

原則として当院退院後、適応のある方には短期間のみ行っています。介護認定を受けておられる場合は、医 療保険のリハビリテーションではなく、原則、介護保険でのリハビリテーションとなります。

【専門外来】

- 装具診:医師・PT・OT・義肢装具士で装具の適応や種類などを検討・作製します。
- ボツリヌス外来:主に脳血管障害後遺症や成人脳性麻痺の痙縮、痙性斜頸を対象としています。 診察・評価・適応の判断・治療・リハビリテーションを総合的に行います。
 - 初診:火曜午前治療:火曜午後
 - ※ 要予約、詳細はリハビリテーション科までお問い合わせください。
- 高齢者いきいき外来:軽度認知機能障害(MCI)を対象とした外来です。 軽度認知障害に対し、臨床心理療法や言語療法で評価を行い、介入を試みています。
 - ·初診:月曜午後、火曜·木曜午前

初診時に神経学的診察、臨床心理士による記憶検査等を実施し、MCIかどうか判断します。その後、アルツ ハイマー病、レビー小体型認知症等の鑑別診断に必要な検査を行います。

当科で実施中の臨床研究(軽度認知機能障害に対する認知リハ・運動介入「心身レクササイズ」)に参加を お願いすることもあります。

後日、ご紹介いただきました患者さんの結果をご報告いたします。

放射線治療科

スタッフ紹介



放射線治療科部長

角 美奈子 (すみ みなご)

出身:熊本大学(S61卒) 資格:日本医学放射線学会·日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医

診療科の特徴

X線・電子線による放射線治療を行っています。

2021年5月に最新の放射線治療装置になり、画像誘導放射線治療や定位放射線治療、強度変調放射線治療 (IMRT) などの高精度な放射線治療が可能となっています。

放射線治療装置や治療技術、画像診断の進歩の恩恵により、より必要な範囲に最適な放射線量を使用して治 療する時代になっています。

さまざまな病気をお持ちの方や年齢的な問題を抱えた方など、治療に不安がある方には相談しながら、より よい治療をすすめています。

放射線治療専門医(経験30年以上)、経験5年以上の放射線技師が担当しています。 受診時には紹介状と画像(CT/MRI/RIなど)をご持参ください。

主な対象疾患

- 肺癌 :通常の放射線治療に加え、リンパ節転移のない小型の非小細胞性肺がんには体幹部定位放射線治 療(SBRT)を行っています。
- 直腸癌:術前治療として短期放射線治療を行っています。
- 白血病などの造血幹細胞移植の前処置として、全身照射 (TBI)を行っています。
- 皮膚癌など表在性の腫瘍に対して、電子線治療を行っています。
- 悪性腫瘍ではありませんが、ケロイドの放射線治療も行っています。
- 乳癌に対する乳房温存療法後の放射線治療を行っています 。手術された病院への通院が困難な方や放射 線治療装置のない病院で手術された場合など、他施設の患者さんにも行っています。
- 緩和ケア内科との連携で、緩和的放射線治療を行っています。
- 高齢者の放射線治療は入院および外来での放射線治療を行っています。状況に合わせ、なるべく体調の変 化や副作用などが少ない治療を提供しています。

得意とする分野-

- 肺癌の放射線治療は高齢者や肺機能低下のある方を含め、多数の治療を担当してきました。皮膚癌や骨軟 部腫瘍、脳腫瘍など希少がんの放射線治療の経験も豊富です。
- 緩和的放射線治療については骨転移の1回照射をはじめ、さまざまな状況に対応した放射線治療を提供し ます。外来治療も可能です。
- 強度変調放射線治療(IMRT)は、前立腺癌をはじめ脳・頭頸部・胸部・腹部・骨盤部の様々な臓器に対 応可能です。

2016-2020年の放射線治療症例の原発部位

部位	症例数	部位	症例数
肺	166件	頭頸部	33件
乳腺	70件	泌尿器(前立腺など)	45件
血液(悪性リンパ腫など)	88件 皮膚		34件
消化管・消化器 (食道・肝胆膵など)	81件	その他	50件
総数			567件

2016-2020年には90歳以上の患者さん49例の放射線治療を実施しています。

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長 臨床検査科専門部長

新井 富生 (あらい とみお)

出身:浜松医科大学(S59卒) 専門:高齢者病理学、消化管病理、腫瘍病理 資格:病理専門医・病理専門医研修指導医 日本病理学会学術評議員 細胞診専門医 臨床検査専門医・臨床検査管理医



病理診断科専門部長

井下 尚子 (volt tatic)

出身:東京医科歯科大学(H6卒) 專門:內分泌病理学、消化管病理、泌尿器病理 資格:病理専門医·病理専門医研修指導医

診療科の特徴

病理診断科では、検査や手術で採取された組織や細胞を顕微鏡で検査して病理診断を行います。病理診断は たいへん重要な検査で、特に腫瘍で良性・悪性を決める場合には最終的な診断となります。病理検査には、生 検、手術検体、細胞診、病理解剖、病理特殊検査があります。術中迅速診断、術中迅速細胞診も行っています。 正しい病理診断が正しい治療の第一歩であり、迅速かつ正確な診断を心がけ取り組んでいます。これらの病理 診断は病理を専門とした医師(病理医)が行います。当センターでは日本専門医機構から認定された病理専門 医がいます。また、細胞診専門医、神経病理専門医もいます。

当センターは伝統的に病理解剖を重視しており、日本でトップクラスの実績があります。1万例を超える症 例の蓄積があり、得られた知見をもとに高齢者医療に貢献しています。

また、セカンドオピニオン外来を開設しており、病理検査や病理診断に関するご相談を受け付けています。

主な対象疾患

生検・手術検体の病理診断に関して、消化器(食道、胃、十二指腸、大腸、虫垂、胆嚢、膵臓、肝臓)、呼 吸器(肺、気管支)、乳腺、前立腺、腎臓、膀胱、皮膚、心臓、脳神経・筋肉、口腔、頭頸部、骨髄、リンパ 節など、全身の臓器から採取された検体に対応しています。

細胞診は、喀痰(たん)、尿、体腔液(胸水、腹水、心嚢液)、脳脊髄液、胆汁、膵液、嚢胞液などの検体 に対応しています。また、膵臓、乳腺、甲状腺、リンパ節などの病変部に穿刺する検査も実施しています(穿 刺吸引細胞診)。さらに、細胞検査士がベッドサイドで行う迅速細胞診(rapid on-site cytologic evaluation. ROSE)にも対応しています。現在、気管支鏡検査時のリンパ節穿刺に対し実施しており、患者さんの負担軽 減に努めています。

がんの治療に関して、病理検体を用いて投薬を決めるコンパニオン病理診断も実施しており、種々のがんに 対する蛋白質発現、遺伝子変異の検査にも対応しています。

得意とする分野

全身の病理検査に対応していますが、特に消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)、内分泌臓器(下垂体、甲 状腺、副腎など)を専門にする病理医がおり、診療のみならず研究実績も上げています。

呼吸器、悪性リンパ腫、白血病、脳神経・筋肉、皮膚、腎などに対しては、それぞれ専門の病理医のサポー トを受けています。

通常の検査に加えて、免疫組織化学、in situ hybridization法、蛍光抗体法、電子顕微鏡検査などの高度な検 査にも対応しています。

臨床検査科

スタッフ紹介



臨床検査科部長

増田 義重 (ますだ よししげ)

出身:筑波大学 (S58卒) 資格:ICD (インフェクション・コントロール・ドクター)



病理診断科部長 臨床検査科専門部長

新井 富生 (あらい とみお)

出身:浜松医科大学(S59卒) 専門:高齢者病理学、消化器病管理、腫瘍病理 資格:病理専門医・病理専門医研修指導医、日本病理学学術評議員

細胞診専門医、臨床検査専門医・臨床検査管理医

診療科の特徴

- 高齢者のQOLに配慮した安心・安全な検査対応を心掛けています。
- 外来採血 8:00開始により、外来診療前検査、外来化学療法などに迅速対応しています。
- 土日・休日夜間を含め、24時間体制で高齢者急性期医療を支援しています。
- バスキュラーラボを立ち上げ、血管超音波検査の臨床要望に応えています。
- NST、ICT、ASTなどチーム医療に参画して中心的に活動しています。
- 医療技術の向上はもとより、臨床研究開発にも積極的に協力しています。

取り扱う検査-

● 検体系検査(生化学、血液、一般、免疫、緊急)

認定技師:認定血液検査士/1名

● 細菌検査

認定技師:認定臨床微生物検査技師/1名

感染制御認定臨床微生物検査技師/1名

● 生理機能検査

日本超音波学会研修施設認定

超音波専門指導医

認定技師:超音波検査士/9名

血管診療技師/2名

放射線診断科

スタッフ紹介



放射線診断科部長

徳丸 阿耶(とくまる あや)

出身:三重大学(S60本)

専門:神経放射線診断、認知症画像診断、神経変性疾患画像診断

資格:医学博士

日本医学放射線学会認定放射線診断専門医

日本医学放射線学会認定指導医

日本専門医機構専門医 日本神経放射線学会評議員



放射線診断科専門部長

今林 悦子 (いまばやし えつこ)

出身:横浜市立大学(H5卒) 専門:脳核医学、統計学的画像解析

資格:日本医学放射線学会認定放射線診断専門医

核医学重門医 PFT核医学認定医



放射線診断科医長

高田 晃一 (たかだ こういち)

出身: 帝京大学(H10卒)

資格:医学博士

日本医学放射線学会研修指導者

放射線診断専門医



放射線診断科専門部長

下地 啓五 (しもじ けいご)

出身:順天堂大学(H10卒)

専門:放射線 資格: 医学博士

日本医学放射線学会専門医 PET核医学認定医



放射線診断科医長

征史 (かめやま まさし)

出身:東京大学(H10卒) 専門:放射線診断科 資格: 医学博士 核医学専門医 PFT核医学認定医

脳循環代謝学会評議員

Fellow of Asian Nuclear Medicine Board

診療科の特徴

当科は、病院全ての科の診断を支える「画像診断」を行っています。21世紀における画像診断技術は想像を越え、 日々進捗しており、人工知能による画像診断まで日常臨床に取り入れられようとしています。癌、脳血管障害、認 知症、COVID-19肺炎、心臓疾患、救急のあらゆる疾患を迅速に、正確に診断するために、適切な検査を選択し、そ こで得られた「画像情報」を、正しく診断する道筋を示すことが、私達の役目です。

当科では、X線写真、CT、MRI、核医学、PETなど最先端の検査機器を駆使するために、診断の専門家医である 放射線科医と、検査技術の専門家である診療放射線技師、看護師、事務スタッフなどが協力し、よりよい診療を皆 さんに提供するために努めています。

特に当科は、高齢者に特化した画像診断、認知症の鑑別診断を得意としています。長寿を寿ぐ社会の本邦は世界 に先駆け、百寿者8万人の超高齢化社会に突入しています。高齢になればなるほど増えてくる癌、認知症、血管障害 は私達が立ち向かうべき大きな課題ですが、それぞれの領域で、センター先生方、多くのスタッフと手を携えなが ら健康長寿を目指し、「適切な時期の正確な診断」に邁進してまいります。

また当科は、研究部門の神経画像研究チーム、神経病理、高齢者ブレインバンク、認知症未来社会創造センター と強い連携を結び、高度の診療、研究レベルを維持しています。

主な対象疾患

放射線診断科では画像診断の対象となるあらゆる疾患に対応しています。

▶ 癌診断、認知症、血管障害、急性疾患など

得意とする分野

放射線診断科で取り扱っている主な検査は以下の通りです。

- C T (コンピューター断層撮影)
 - ▶ マルチデイテクターヘリカルCT、デユアルエナジーCTによる薄いスライスでの画像診断による診断精度 向上、検査被曝量の軽減を実現し、全身の多様な疾患で生じる画像所見を丁寧に拾い上げ正確な診断に 結び付けています。
- ●MRI (磁気共鳴画像)
 - ▶ 腹部領域ではMR膵胆管造影による肝臓、胆道系検査、また拡散強調画像―ADC検査を組み入れた前立 腺癌検出に優れた撮像を施行しています。
 - ▶ MRIは中枢神経系の診断に有用な診断ツールです。脳血管障害の緊急に24時間対応しており、また通 常検査に加えMRアンギオ、出血に敏感な撮像法、さらには3次元データによる解析で認知症を来すアル ツハイマー病や嗜銀顆粒性認知症、前頭側頭葉型認知症、てんかん原因検索などに力を発揮しています。

●骨密度検査

▶ 骨密度を保つことは、高齢者の日常生活動作を円滑にするために欠かせません。そのためには、まずご 自分の骨密度の状態を知ることが大切です。

- ●マンモグラフィ
 - ▶ 乳がん診断に役立ちます。
- R I (核医学)検査
 - ▶ 骨シンチグラフィ、脳血流検査による脳血管障害、認知症診断、さらにはパーキンソン病国際診断基準 に記載されているMIBG心筋シンチグラフィ、ダットスキャンなどを日常検査として施行しています。
- P E T (陽電子放出断層撮影)検査
 - ▶ 18F-FDGという薬剤を用い、癌や炎症病巣を特定し、良悪性の鑑別、転移病巣の有無、治療効果判定、 再発の有無、さらにはアルツハイマー病などの認知症疾患、てんかん、大型血管炎などの診断にも役立 ちます。
 - ▶ 13N-アンモニアを用いて、他の検査では診断がつかない虚血性心疾患の診断に用いられます。新たに保 険適用検査となって活用が期待されています。

ジュニアレジデント

シニアレジデント

ジュニアレジデント

【総合内科・高齢診療科】	【血液内科】
北郷 萌 (きたごう もえ)	原田 美香 (はらだ みか)
近藤 壯一郎(こんどう そういちろう)	【精神科】
【腎臓内科】	半田 剛久 (はんだ たけひさ)
橋本 征治 (はしもと せいじ)	【化学療法科】
荒井 誠大 (あらい まさひろ)	上江田 優美 (うえだ ゆみ)
【糖尿病・代謝・内分泌内科】	【外科】
全 秀剛 (ぜん しゅうぜん)	深沢 智將 (ふかさわ ともまさ)
高橋 寿枝 (たかはし ひさえ)	磯野 優花 (いその ゆか)
佐藤 元彌 (さとう もとや)	大森 春佑 (おおもり しゅんすけ)
勝俣 悠 (かつまた ゆう)	【脳神経外科】
與口 健太郎(よぐち けんたろう)	岳田 安奈 (たけだ あんな)
【循環器内科】	【皮膚科】
宮脇 正次 (みやわき まさし)	河邉 護 (かわべ まもる)
橘 昌利 (たちばな まさとし)	【泌尿器科】
山本 英善 (やまもと えいぜん)	安部 芳紀 (あんべ よしき)
【呼吸器内科】	菊池 あき (きくち あき)
永井 博之 (ながい ひろゆき)	【眼科】
【消化器・内視鏡内科】	野田 拓也 (のだ たくや)
白倉 英知 (しらくら ひでのり)	松浦 智之(まつうら ともゆき)
富野 琢朗(とみの たくろう)	中川 美智子(なかがわ みちこ)
正谷 一石 (まさたに かずし)	岡野 夏海 (おかの なつみ)
【脳神経内科】	寺島 まり絵 (てらしま まりえ)
東野 将志(ひがしの まさし)	【病理診断科】
小松 大樹 (こまつ たいき)	小松 明子 (こまっ あきこ)
小林 孝史 (こばやし たかし)	織田 麻琴(おりた まこと)
後藤 良司 (ごとう りょうじ)	【放射線診療科】
	米山 雅彦(よねやま まさひこ)

【2年次】		【1年次】	
糸数	祐公子 (いとかず ゆきこ)	伊藤	志帆 (いとう しほ)
植村	哲也 (うえむら てつや)	倉島	葵 (くらしま あおい)
河合	絢 (かわい あや)	小森	雄太 (こもり ゆうた)
河本	千明 (かわもと ちあき)	清水	梓 (しみず あずさ)
國部	亜希 (くにべ あき)	玉田	歩 (たまだ あゆみ)
嶋﨑	亮介(しまさき りょうすけ)	千葉	えみり (ちば えみり)
帯刀	健太 (たいとう けんた)	中西	恵(なかにし めぐみ)
中出	麻美 (なかで あさみ)	橋本	のぞみ (はしもと のぞみ)
沼賀	曲佳 (ぬまが ゆか)	藤井	昭朗 (ふじい あきお)
林 卓	三矢 (はやし たくや)	堀越	裕介 (ほりこし ゆうすけ)
南砌	一人 (みなみ けんと)	村瀬	開 (むらせ かい)

医療連携室のご案内

在宅医療・福祉相談室のご案内

13

医療連携室とは

地域の皆さまに安心・満足してご利用いただける病院として、地域のかかりつけの先生方をはじめ、 様々な医療機関や施設等を"つなぐ"窓口です。医療を必要とされる方がスムーズかつ適切な医療サービ スをお受けいただけるよう、地域と当センターをつなぐ架け橋となり、円滑な前方連携を図ることを役 割としております。



主な業務内容

- 地域医療機関からの各種お問い合わせ窓口
- 外来診察/検査の予約調整
- 入院(緊急を除く)/転院に関するご相談・調整
- 医療機関への各種返書管理
- 各種研修会/公開講座・CPC等の開催
- 広報(診療科のご案内・地域連携NEWS等の作成)
- かかりつけ医紹介窓口による逆紹介
- 連携医との地域連携
- 各種統計業務
- その他医療連携に関する調整業務



「地域連携NEWS」

お問い合わせ

医療連携室

♥ 03-3579-6963 (直通電話)

■ 03-3964-1392 (直通FAX)

平日9:00~17:00まで(土日祝日/年末年始を除く)

医療ソーシャルワーカー・看護師が専任で対応いたします。

ご利用方法

原則として、当センターへ入院及び外来通院中の患者さんに限らせていただいております。 また、ご相談にあたっては事前に予約が必要となりますので、在宅医療・福祉相談室までご連絡の うえ、ご予約をお取りください。

医療相談

高齢者の病気は慢性的に経過することが多く、身体機能にもさまざまな障害を生じて従来の日常生活の維持が困難となる場合があります。患者さん及びご家族の抱える経済的、社会的、心理的な問題を把握し、在宅サービスや施設サービスなど福祉諸制度の活用方法を提案したり、療養上・介護上の問題を解決するためのご相談に応じております。

「例」・ 医療費の支払いが心配

- 退院を勧められているが、退院後の生活に不安がある
- 介護保険について知りたい
- リハビリや長期の入院ができる病院を知りたい。
- ・ 介護施設について知りたい
- 病気に伴っての就労や職場復帰に不安がある
- ・ 身体障害者手帳や障害年金などの各種社会保険制度を知りたい
- ・ 緩和ケア病棟に関する相談



在宅看護相談

病院から自宅への切れ目ない医療とケアを提供し、患者さんやご家族が安心して在宅医療が送れるよう、病院スタッフや地域の関係者の方々と連携し、在宅療養支援を進めております。

[例] ・ 退院後の自宅での医療処置や介護方法はどうしたらいいか不安がある

- ・ 医療処置や介護に必要な物品はどこで購入できるのか知りたい
- ・ 訪問医や訪問看護、ケアマネージャーはどのように探せばいいのかわからない

退院前合同カンファレンスのご案内

在宅医療・福祉相談室では、患者さんやご家族が安心して在宅療養を送ることができるよう、スムーズな在宅移行を目標に退院支援を送っております。退院前に行う地域関係者との合同カンファレンスは退院支援の一つの方法であり、とても大切なものと考えております。退院前に患者さんやご家族が地域関係者と顔を合わせることで、大きな安心感が得られております。

連携医制度のご案内

連携医とは(https://www.tmghig.jp/hospital/community/guide/)

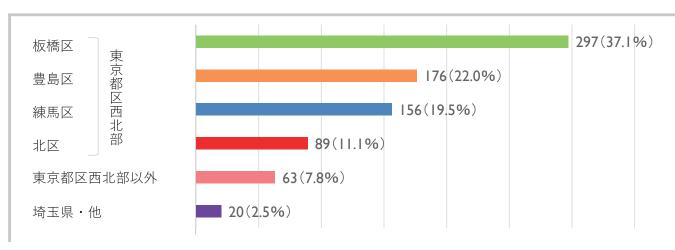
当センターでは、地域の医療機関の先生方と相互に連携し、適切な役割分担のもと、患者さんに一貫性のある良質な医療を提供しております。なかでも当センターとより緊密な連携を結んでいるのが連携医です。

連携医の先生方は、地域での豊富な診療経験を持つ医師です。かかりつけ医として日頃から患者さんの健康状態を詳しく把握し、定期的な検査や病気の初期治療、慢性疾患の治療を行います。病気になったときや健康管理上の相談やアドバイス等も行っています。

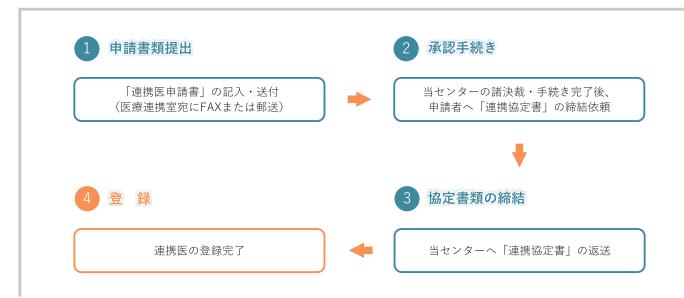
当センターは、急性疾患または重症な患者さんの治療を主とする急性期病院として、連携医からの紹介のもと、より詳しい検査や入院、手術等の専門的な診断・治療を行ってまいります。

このように、地域の各医療機関がそれぞれ役割分担し、相互に連携して患者さんの診療にあたることで、より多くの患者さんに質の高い医療を効率的に提供することが可能となります。

連携医療機関登録状況(2021年8月31日現在)



登録方法



連携医の特典

迅速な受入れ対応

救急担当医や該当する診療科の 連携当番医が迅速にお受入れし、 速やかな治療開始に努めます。

スムーズな診察予約

ご紹介いただいた患者さんの スムーズな診察予約を行います。 (医療連携室でもご予約を承ります)

優先的なご紹介

当センターから逆紹介機関として、 優先的にご紹介いたします。 (かかりつけ医紹介窓口の紹介含む)

連携医療機関情報の掲載

当センターのホームページや 各種案内誌に積極的に連携医療機 関情報を掲載させていただきます。

各種ご案内の送付

毎月の「外来医師配置表」や当センターで開催する研修会や懇親会等のご案内を都度ご案内させていただきます。

在宅医療連携病床へのご入院

患者さんが在宅での生活を継続するため、連携医からの要請のもと、一時的(原則として2週間以内)に、ご入院を受入れさせていただきます。

老年症候群による低栄養、褥瘡、摂食・嚥下機能等の評価や罹患している病気の現状評価を実施します。そのほかにも全身状態を把握するためのCT等の画像検査や生理機能検査、内視鏡検査等の評価目的でのご入院もお受けしております。なお、病状評価の結果、専門的な治療が必要な場合には、専門となる診療科へご紹介させていただきます。

また、介護者の体調不良や不在時におけるレスパイトケアでのご入院も対応しております。

ご入院をご希望される場合は、医療連携室までご連絡ください。

栄養指導外来のご依頼

連携医の先生が糖尿病や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病治療において、栄養管理士による栄養食道指導が必要と判断された患者さんを対象に以下の内容で栄養指導外来を開設しております。

- ・ 指導回数は2~3回程度を目安としております。
- ・ 指導終了後、指導内容について連携医の先生にご報告いたします。
- 保険診療の範囲内での指導を想定しています。

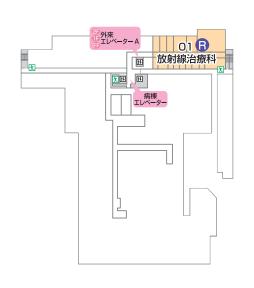
ご利用にあたっては、事前のご予約が必要です。医療連携室までご連絡ください。

施設のご案内

全体図



B1F





R:放射線治療科



† & 🛊

外来診療受付 蘋龍

外来 エレベーターA

外来診療受付

外来 エレベーターB

生理検査 もンター m 25 26





A:カフェ

B:救急診療受付





C:総合受付

D:外来診療受付





E:渋沢栄一像

F:ビオトープ





H:売店



I:養育院・渋沢記念コーナー

3 F

2 F





J:リハビリテーション科

K:屋上庭園

各種電話番号



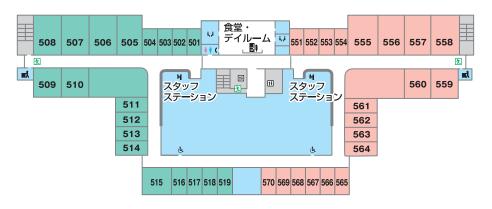




L:特定集中治療室

M:中央手術室/血管造影室

$5 F \sim 11 F$





食堂デイルーム









特別室S

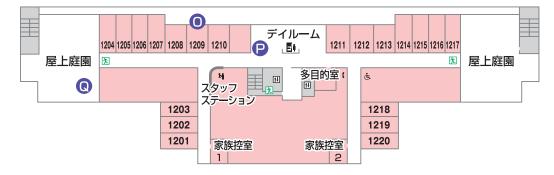
個室 B

個室 C

個室 D

多床室

12F







O:緩和ケア病床

P:家族控室

Q:屋上庭園

2

予約センター

03-3964-4890

(外来受診予約に関するお問い合わせ)



080-4116-1141

<u>医師が応答して受け入れます。</u> (結果的に脳卒中でなかったとしても問題ありません。)



医療連携室

03-3579-6963

(医療機関からのお問い合わせ全般)



がん相談支援センター

03-3964-5946

(がん相談に関するお問い合わせ)



代表電話

03-3964-1141

(当センターへのお問い合わせ全般)





東武東上線をご利用の場合・・・・・・・・・・ 大山駅下車、南口・北口より徒歩4分

都営地下鉄三田線をご利用の場合 ····· 板橋区役所前駅下車、A3出口より徒歩11分



東京都健康長寿医療センターは、

高度な医療を提供することを目的とした急性期型病院です。